

14. 678-96

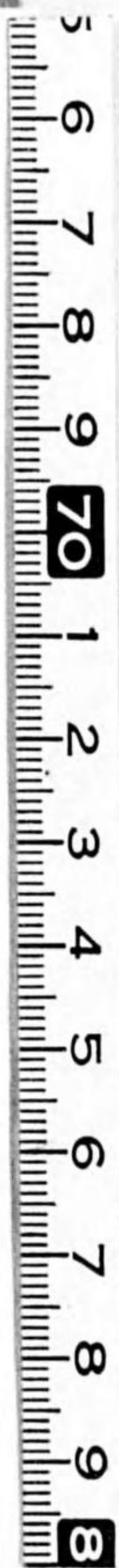


\*1200600885079\*



昭和九年統計年報

第一區府縣立全生病院



始



院 歌

ア シクニ ア オグ フジノヤマ  
 ユフベニ ヨル チチヅノネ  
 ソラヨリヒ ロキ レサシノノ  
 ナ カニ フレラノ スマイアリ

一、

あしたに仰ぐ不土の山  
 ゆふべに映ゆる秩父の嶺  
 空より廣き武蔵野の  
 中に我等のすまゐあり

二、

恵も深き聖代に  
 もといをおきて幾星霜  
 歴史を語る松風に  
 ふくむん高くつとふらん

三、

その名を聞けや全生の  
 住ふ村人とこしへに  
 こゝろの望抱きつゝ  
 共にたのしく集ひなん。



楽 詞

Musical score consisting of four staves of notation. The first staff is the vocal line, and the subsequent three staves are for piano accompaniment. The notation includes notes, rests, and bar lines, with some lyrics written below the notes.

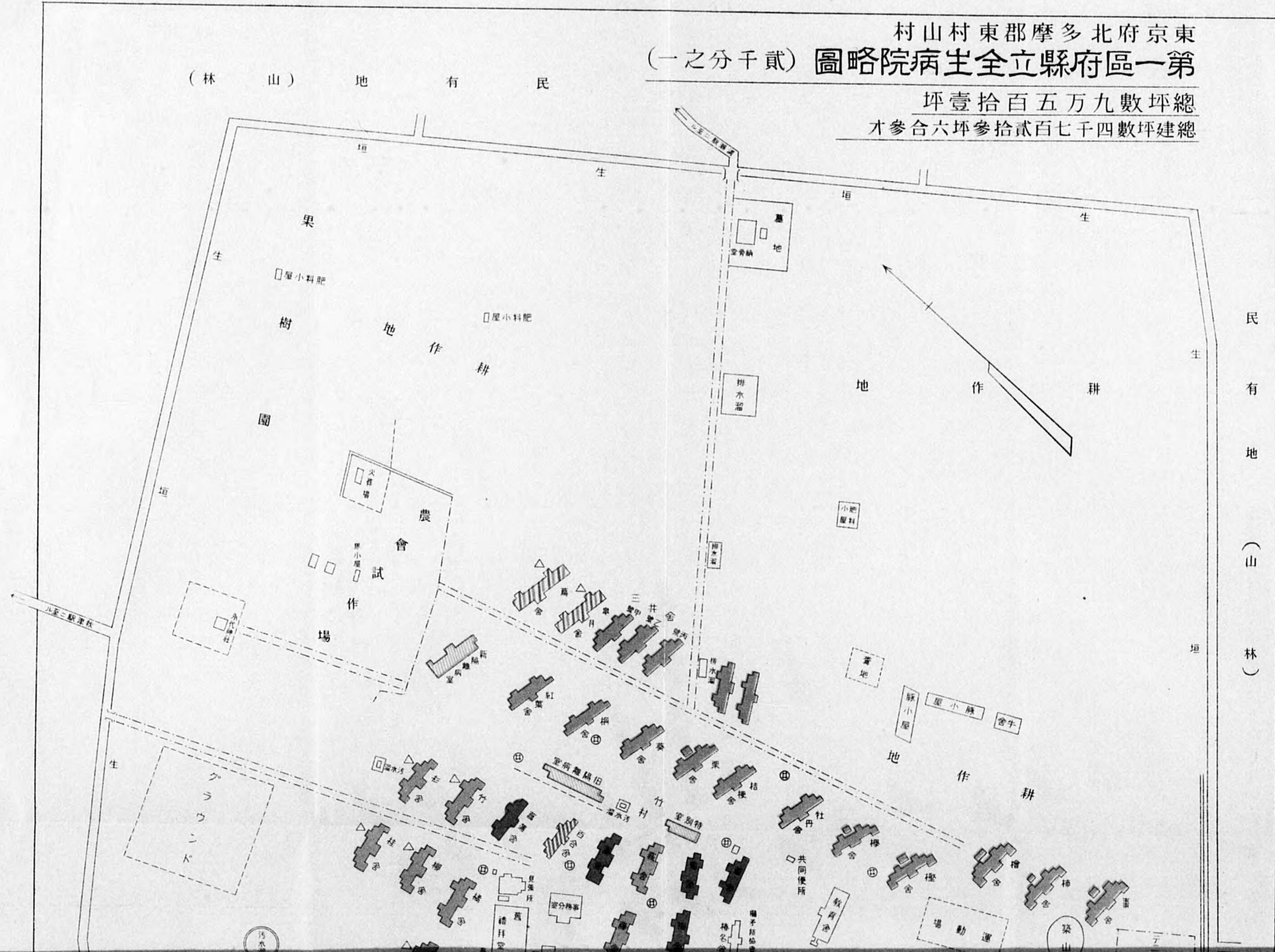
一  
 此の世のしる世のなみ  
 こころの慰めをい  
 けえは人もこころ  
 のきこえ聞けみまの  
 二  
 ねうはし高うへもまこ  
 細きまきるはる  
 まうははるこく  
 三  
 中二舞のすまらぬ  
 空しき涙を友愛の  
 のよこし知のる其父の  
 のよこし時よ木上の山

村山村東郡摩多北府京東  
(一之分千貳) 圖略院病生全立縣府區一第

坪壹拾百五万九數坪總  
才參合六坪參拾貳百七千四數坪建總

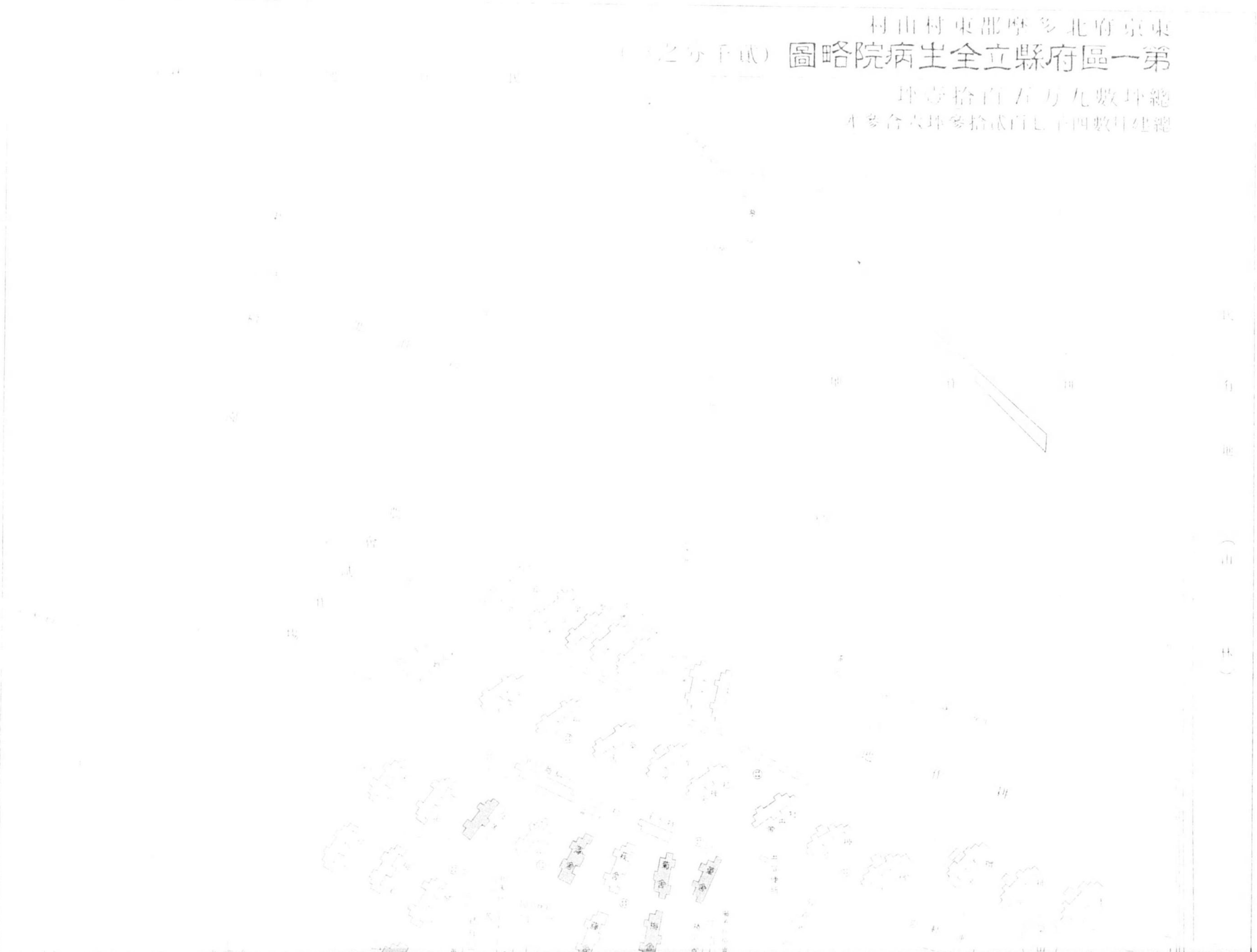
(林 山) 地 有 民

民 有 地 (山 林)



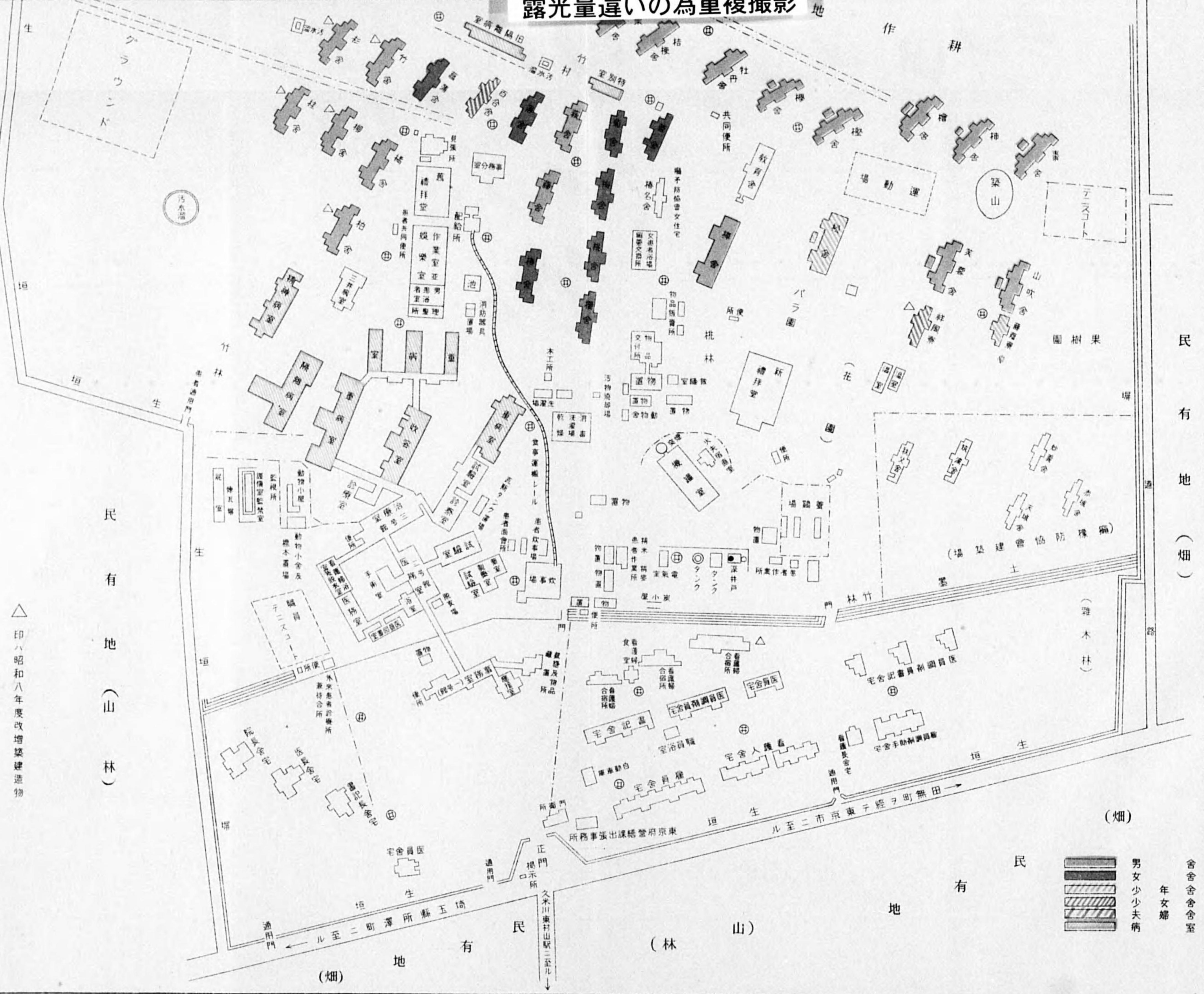
第一區府縣立全生醫院略圖 (試千分之)

東京府北多摩郡東山村  
總坪數九萬五千餘坪  
總坪數七十四萬二千餘坪



北  
南  
東  
西

露光量違いの為重複撮影地



△印八昭和八年度改増築建造物

民有地

[Solid Grey]	舍舎
[Diagonal Lines /]	舍舎
[Diagonal Lines \]	舍舎
[Horizontal Lines]	男女少夫病
[Vertical Lines]	年女婦
[Dotted]	舍舎

(畑)

(畑)

(山林)

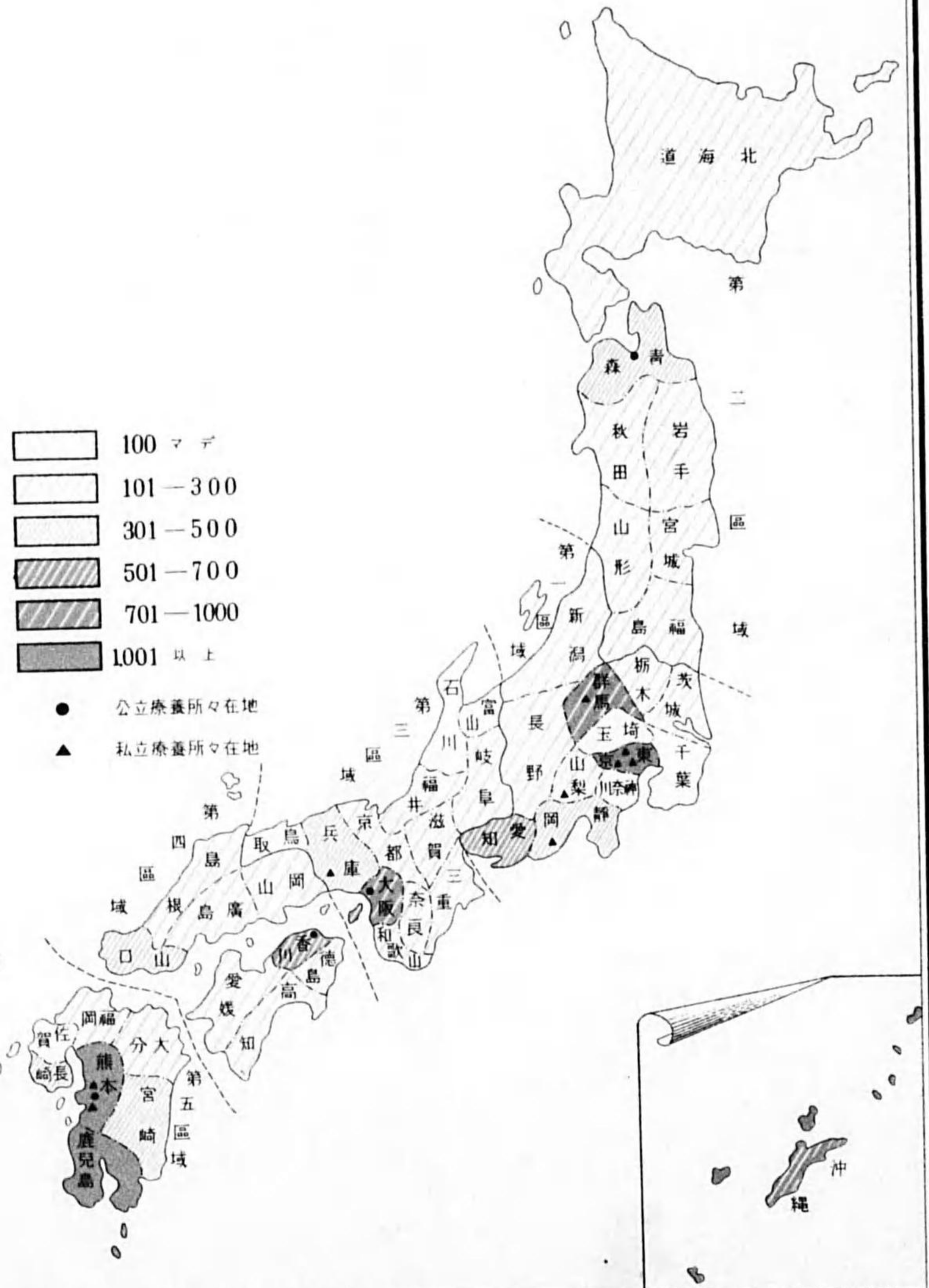
民有地(山林)

民有地(畑)

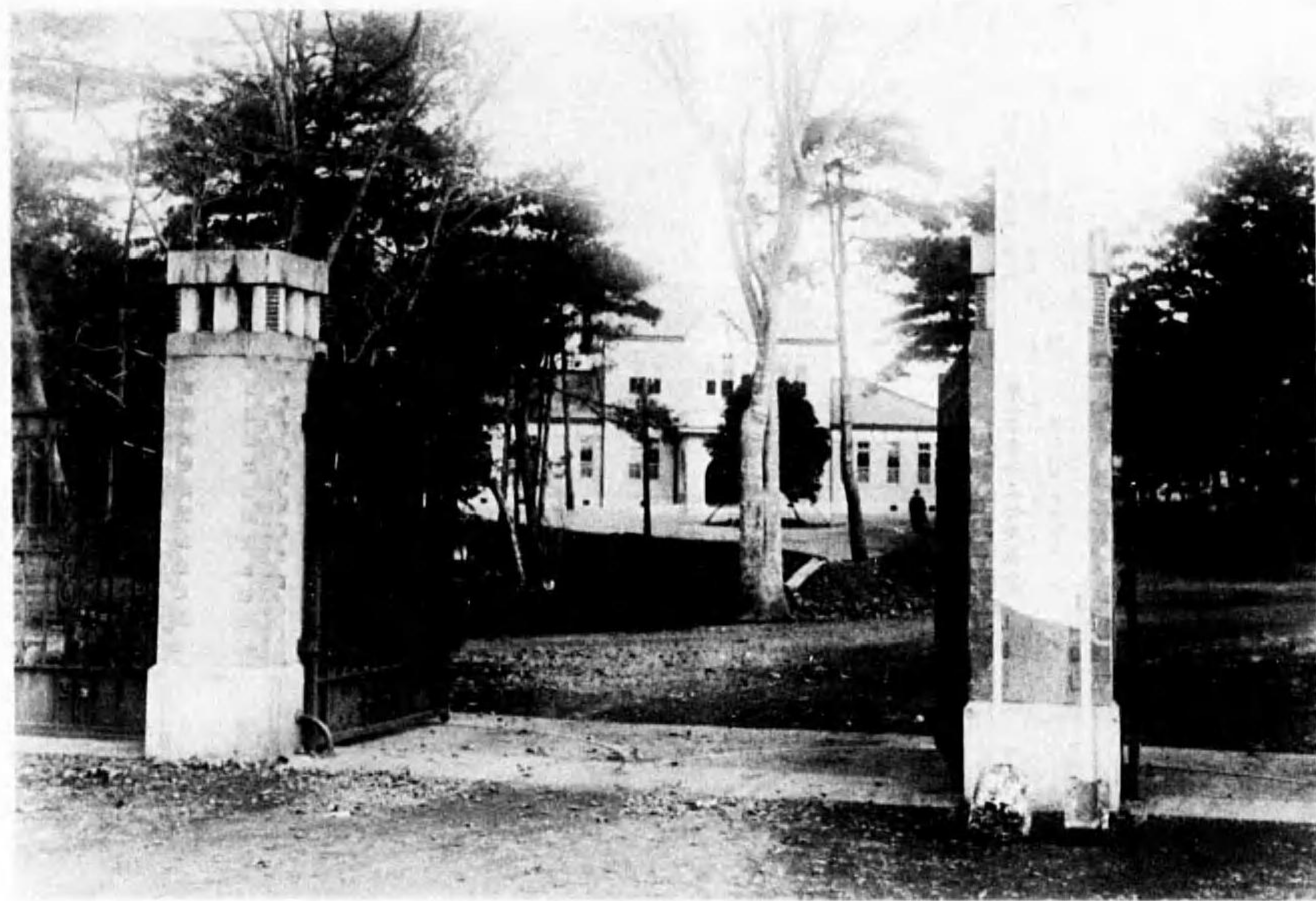


# 全國癩患者分布圖

昭和五年三月十一日調查



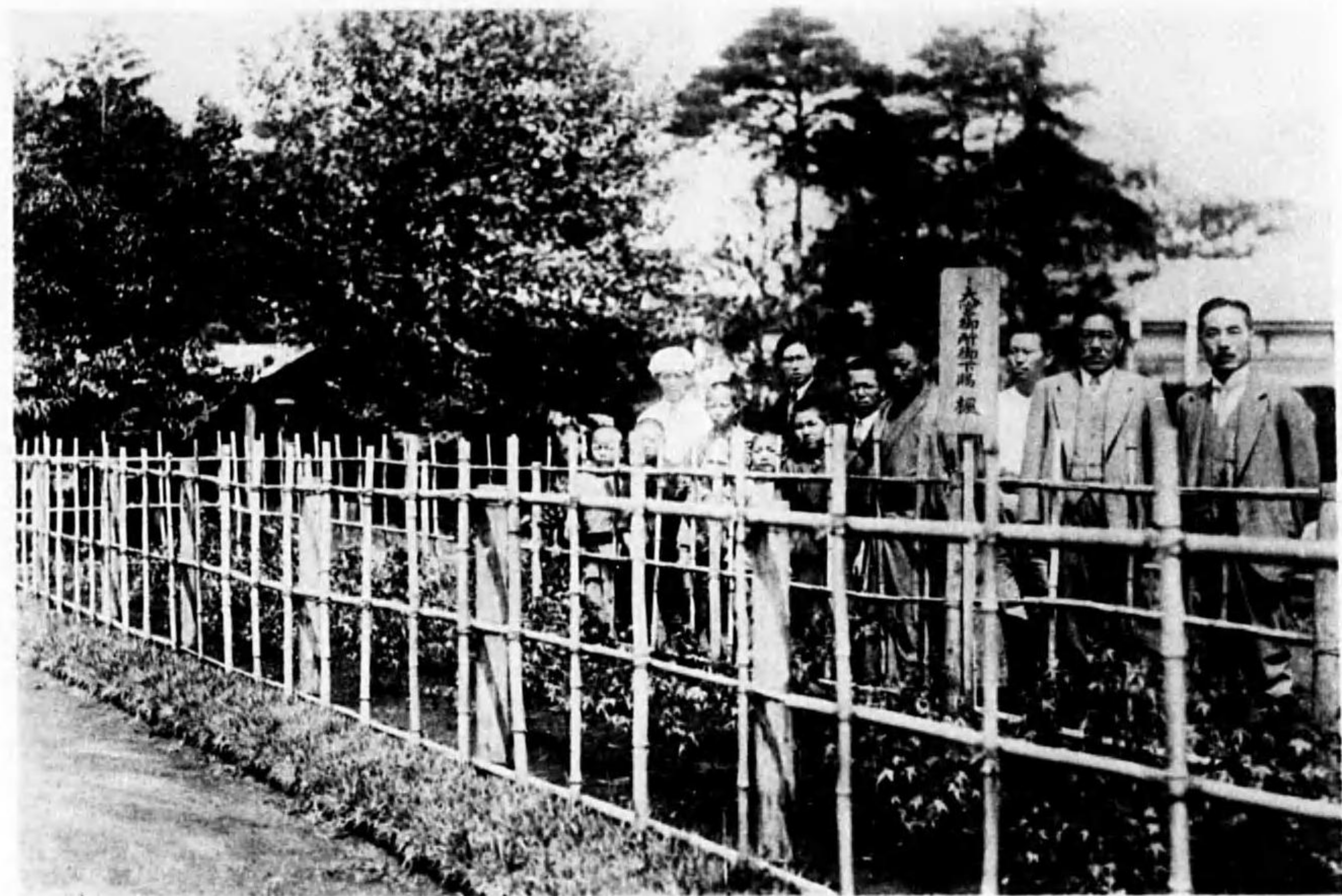




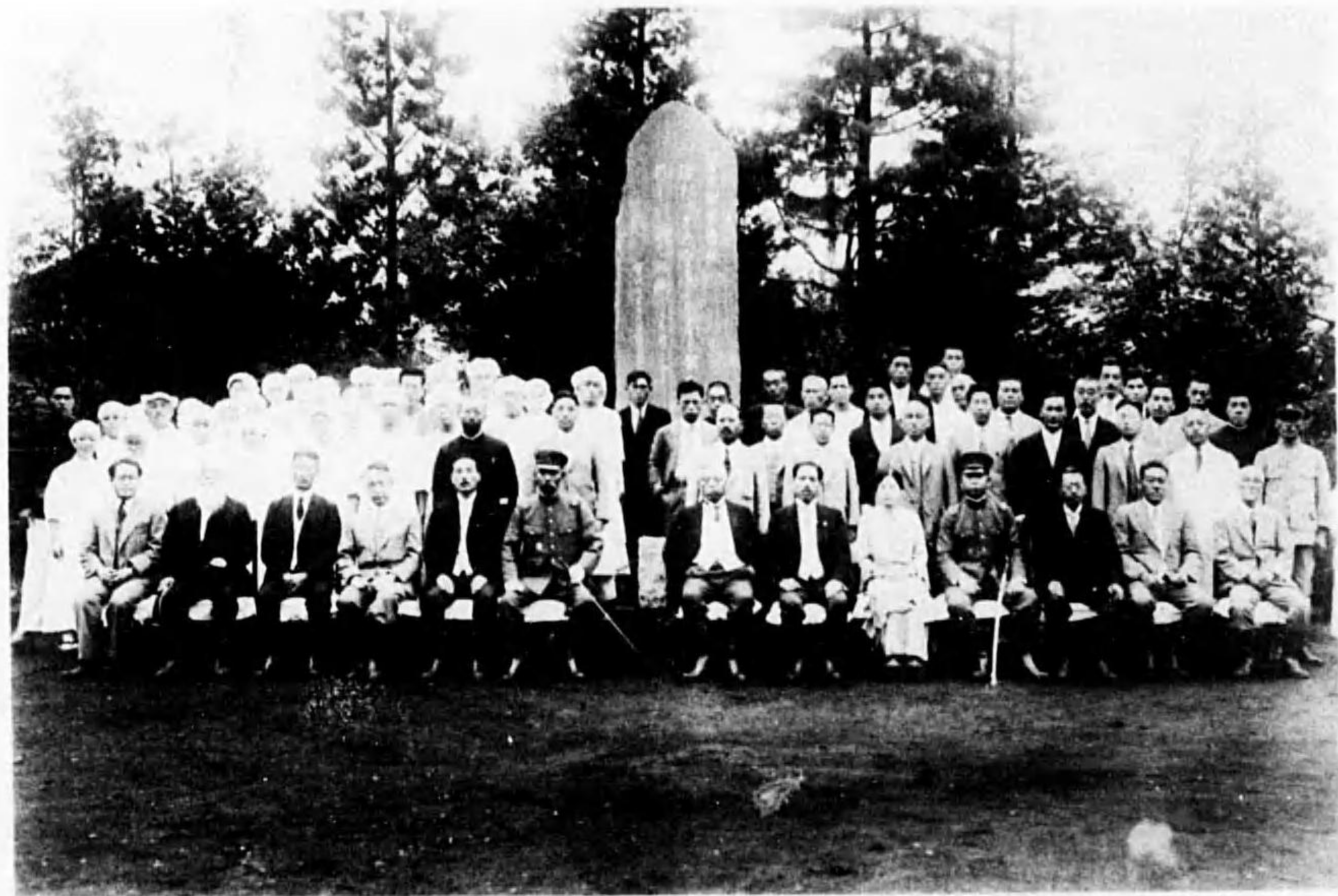
改築事務本館



永代神社（患者=依ツテ建築）



大宮御所御下賜ノ楓



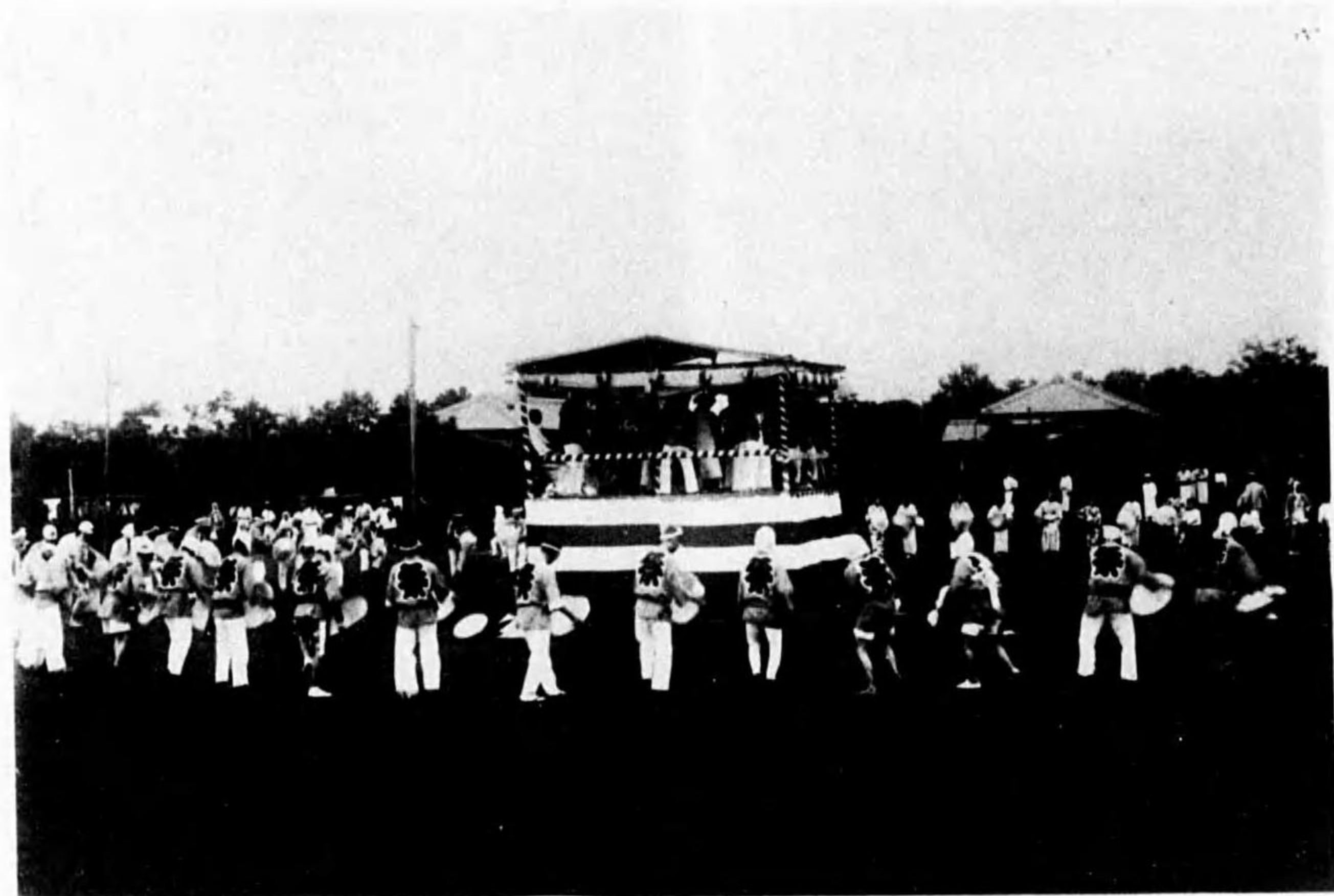
陸軍大臣林銑十郎閣下御一行（中央左、陸軍大臣 右、三室戸子爵）



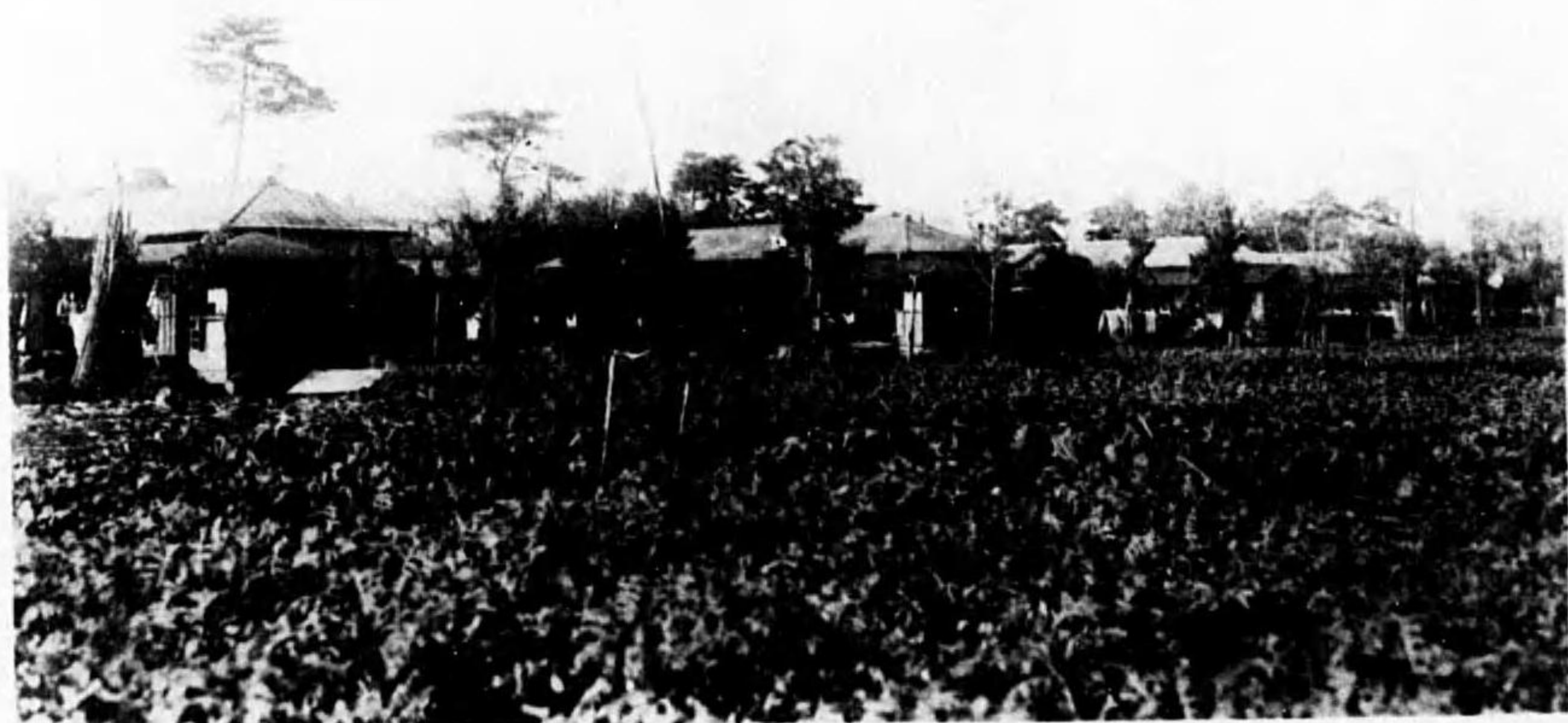
重 患 症 者 ノ 治 療



防 火 デ ー = 於 ケ ル 全 生 消 防 團 ノ 活 動



患者ノ娛樂(全生踊)



院内農耕地及輕症患者住宅ノ一部

目次

第一 沿革	一
○ 職員異動表	二一
第二 概況	二五
一 敷地	二五
二 建物	二六
三 職員	三一
四 收容患者定員及現在數	三三
五 本年中ノ重要事項	三三
第三 總經費	三六
一 豫算	三六
二 決算	三八
第四 患者一人當經費	四〇
第五 治療	四一
第六 患者ノ狀態	四三
一 入室狀況	四三
二 衣食	四四

三 慰安及娛樂	四八
四 風紀	五〇
五 教育	五〇
六 作業	五一
第七 統計	五三
一 收容患者異動表	五四
二 現在患者本籍地別表	五六
三 現在患者發病年齡別表	五六
四 患者發病ノ時ヨリ療養所入所迄ニ至ル經過年數別表	六〇
五 現在患者病型年齡別表	六一
六 死亡患者病型年齡別表	六二
七 死亡患者病名年齡別表	六三
八 發病以來來死亡迄ノ經過年數別表	六五
九 現在患者發病當時ノ職業別表	六六
一〇 現在患者前科者調	六八
第八 財團法人瀨豫防協會患者相談所狀況	六九
附 一 院內社會事業團體	
二 關係法令	

# 第一區府縣立全生病院年報

明治四十一年 沿革

## 開院當初

一 本院ハ明治四十年法律第十一號ニ基キ同年內務省令第二十號ヲ以テ東京府神奈川縣新潟縣埼玉縣群馬縣千葉縣茨城縣栃木縣愛知縣靜岡縣山梨縣長野縣ノ一府十一縣ヲ聯合區域ト定メ創設シタルモノニシテ時ノ東京府知事阿部浩ハ療養所所在地ノ故ヲ以テ本院管理知事トシテ明治四十年十月創設費豫算ヲ編製シ聯合府縣ノ各代表者ト會合シテ費用ノ支出分擔方法ヲ議定シタルモ豫防法實施期日改正ノ結果遂ニ實行ヲ見ル能ハサリシヲ以テ明治四十一年三月更ニ之ヲ議定スルニ至レリ

## 明治四十二年

一 越エテ明治四十二年二月ニ至リ東京市ヲ距ル西方八里十五町所澤町ヲ離ル、東南方約一里田無街道ニ沿ヘル東京府北多摩郡東村山村大字南秋津字開發地内ナル林野三萬七百八坪ヲ敷地ニ選定シ同年四月工ヲ起シ建築ニ著手セリ同月東京府屬大野德太郎ハ本院長事務取扱ヲ命セラレタテ各醫員調劑員書記等ノ任命アリ同年九月光田健輔ハ本院醫長ヲ命セラレタリ

一 同年九月設備セシ建物左ノ如シ

- 一號館事務所 一棟 六十八坪五合
- 二號館(治療所) 一棟 三十坪
- 三號館(治療所) 一棟 五十四坪
- 試驗室 一棟 十八坪
- 患者住宅 十一棟 四百八十六坪七合五勺
- 普通病室 一棟 五十坪五合
- 隔離病室 一棟 二十七坪五合
- 屍室(解剖室) 一棟 八坪
- 禮拜堂 一棟 七十二坪
- 浴場(備帶交換) 一棟 二十五坪
- 蒸汽機關室(附濯場) 一棟 三十坪
- 炊事場 一棟 四十二坪
- 職員舍宅 五棟 二百四十四坪七合五勺
- 物置 二棟 十五坪
- 門衛所 一棟 十三坪七合五勺
- 職員浴室 一棟 五坪
- 汚物燒却場 一棟 三坪

一明治四十二年九月二十八日諸般ノ準備略ホ整理ヲ告ケタルヲ以テ開院式ヲ舉行セリ然レトモ其ノ設備未タ全タカラサルヲ以テ一時東京府在原郡目黒村私立慰廢園ノ一部ヲ借リテ假收容所ニ充テ其ノ間ノ事務ハ東京府廳内ニ於テ處辨セラレタリ越エテ十月十八日ニ至リ始メテ本院内ニ於テ事務ヲ開始シ收容患者ヲ移スト同時ニ聯合各府縣ノ送致ニ係ル患者ヲ順次收容スルニ至レリ

明治四十三年

一三月大野東京府屬ハ院長事務取扱ヲ解カル、ト同時ニ休職千葉縣市原郡長池内才次郎本院長ヲ命セラレ同年六月院長專務トナレリ

- 一明治四十三年勅令第三百四十六號癩療養所職員制發布ニ依リ同年十月池内才次郎ハ療養所長ニ光田健輔ハ療養所醫長ニ任セラレ、ト同時ニ本院長又ハ本院醫長ヲ命セラレ其ノ他醫員調劑員書記何レモ任命セラレタリ
- 一同年度中ニ於ケル補充設備ノ箇所左ノ如シ
  - 患者作業場兼娛樂所 一棟 八十坪
  - 特別室 一棟 十六坪二合五勺
  - 裁縫所兼物品藏置所 一棟 二十五坪
  - 通用門駐在所 一棟 一坪七合五勺
  - 看護人寄宿所 二棟 三十一坪
  - 浴場ノ増築 二ヶ所 十坪
  - 機關手及雇員住宅 一棟 六十坪
  - 隔離病室看護人控所及浴場 二棟 七坪
  - 藥庫及器具消毒室 一棟 二十坪
  - 患者共同便所 一棟 一坪
  - 手術室 一棟 九坪
  - 看護人駐在所 一棟 七坪七合五勺

明治四十四年

一本年中ニ於テ補充セシ建物ハ  
火葬場 一箇所

此ノ敷地百五十坪 建坪十二坪ナリ  
一明治四十五年年度ニ於テ患者百五十人増員ノ計畫ヲ立テ増員ニ對スル建築費及救護ニ要スル一切ノ經費豫算ヲ計上シ聯合各府縣協議會ニ提出シタル結果差當リ現在ノ建物ヲ以テ五十人ヲ増員シ明治四十五年四月ヨリ之ヲ實行スルコト、ナレリ

大正二年

一 本年ニ於テ補充設備セシ建造物ハ左ノ如シ

普通病室	一棟	四十坪
物品交附所兼物品藏置所	一棟	十坪
洗濯仕上ケ所兼乾燥室	一棟	十坪

大正三年

一 二月十九日院長池内才次郎ハ願ニ依リ本職ヲ免セラレ同日醫長光田健輔ハ療養所長ニ補セラレ同時ニ本院長ヲ命セラレタリ

大正四年

一 本年度ニ於テハ從來ノ建物ヲ以テ五十人ヲ増員シテ四百人トナスコト、ナリタリ然ルニ大正四年八月ノ豫算協議會ニ於テ聯合各府縣當事者ハ御即位ノ大典ニ際シ尙ホ市内各所ニ癩患者ノ浮浪スル者アラムコトヲ慮リ遺憾ナク收容スヘキ決議ヲナシタリ然レドモ如何セン今年度増員ノ爲メ已ニ病舎ノ狹隘ヲ告ケ居ル際ナルヲ以テ十月中ニ四十二坪五合ノ一棟ヲ増設スルノ已ムナキニ至リタルヲ以テ急キ工事ニ著手シ十月末ニ落成セリ依ツテ十一月ノ御大典ノ際ニハ四百二十餘人ヲ收容シ得ルコト、ナレリ同年十二月一日ニハ其ノ收容數四百二十四人ヲ算セリ

同年度設備セシ建築物寝具被服日用器具ノ他ニ炊事場ノ改善ヲ施シ從來ノ薪炭ヲ廢シ鈴木式蒸汽炊事竈六箇ヲ裝置シ床面ノ「コンクリート」ヲ撤シテ花崗石トナシ尙一坪五合ノ増築ヲナシタルニ清潔ニシテ且ツ經濟的ナルノミナラス尙將來ニ向ツテ多少ノ餘裕ヲ存スルヲ得タリ  
其ノ他豚小屋五坪ノ増設生垣二百間ノ新設ヲナセリ  
一 本院ニ於テハ從來職員退職給與金支給ノ規定ナカリシカ聯合府縣ノ協議ヲ經テ大正四年度ヨリ施行スルコト、ナレリ  
一 本院患者墓地ニハ是迄墓石ノ設ケナカリシカ大正五年東京市淺草東本願寺ヨリ墓碑一基ヲ寄附セラレタルヲ以テ七月之レカ建設ニ著手シ九月ニ至リ其ノ落成ヲ告ケタルニヨリ同月二十二日秋季慰靈祭ヲ兼テ除幕式ヲ舉行セリ

大正六年

一 本年度ニ於テハ從來收容定員四百人ノ外更ニ患者百人増員ノ豫算可決セルヲ以テ増員ニ必要ナル諸建物ノ建築ニ著手シ同年十二月迄ニ左記建物ノ落成ヲ見タリ

患者住宅	三棟	百三十二坪	普通病室	一棟	四十坪
寝具被服物置	一棟	十坪			
更ニ引續キ					
醫員調劑員舎宅	一棟	三十三坪	看護人舎宅	一棟	二十九坪五合
看護人寄宿舍増築 <small>(在來ノ建物ニ建テ繼キ)</small>	六坪				



ノ諸建物落成ヲ見タリ  
尙此外汽罐室ヲ増築シ蒸汽機關一臺ヲ据付クヘキ豫定ノ處物價騰貴ニ伴ヒ既定豫算ニテハ建築及機關ヲ購入スルコト能ハサルニ依リ止ムナク機關室増築ハ大正七年度ニ延期シ機關一臺ノミヲ購入シタリ

大正七年

- 一 本年度ニ於テ落成シタル建物左ノ如シ
  - 汽罐室 一棟 十二坪 消毒用機關室増築(在來ノ建物ニ建テ繼キ) 九坪
  - 豚小屋 一棟 五坪五合五勺 炊事場物置 一棟 十坪
  - 醫務室 一棟 二十一坪 醫務室附屬渡廊下 五坪
- 一大正八年度ニ於テハ三號館治療室ノ模様替ヲ爲シタル外特記スヘキ事項ナシ

大正十年

- 一 本年度ニ落成シタル建物左ノ如シ
  - 製藥消毒兼試驗室 一棟 十六坪
  - 脱衣所 一棟 五坪
  - 物品交附所 一棟 三坪七合五勺

大正十一年

一 本年度ヨリ患者百人増員ニ伴フ諸設備ヲ實施センカ爲メ大正十年九月上旬聯合各府縣當事者ハ東京府廳ニ會合シ十年度追加豫算建築費拾八萬千四百四圓初度調辨費金壹萬貳千貳百五拾貳圓九拾五錢ヲ可決セリ依テ先ツ以テ敷地ヲ擴張セシカ爲メ現在敷地ニ接續セル東南方山林及畑地二萬三百五十三坪ヲ同年十二月買收セリ然レトモ建築工事ハ時日僅少ナリシカ爲メニ同年度内ニ著手スルノ運ヒニ至ラサリキ

大正十二年

一 院長光田健輔ハ内務省ヨリ臨時衛生局事務ヲ囑託セラレ大正十二年七月佛國ニ於テ開催ノ萬國癩會議ニ本邦代表者トシテ出席ヲ命セラレ且東京府ヨリハ佛國へ出張ノ序テヲ以テ歐米各國ニ於ケル癩豫防事務視察ヲ命セラレ同年六月六日渡歐ニ付同月四日院長不在中東京府庶務課長理事官土岐銀次郎ハ院長事務取扱ヲ命セラレタリ

一 本年度ヨリ患者百五十人増員ニ伴フ諸設備ヲ實施センカ爲メ大正十一年九月聯合府縣當事者東京府廳ニ會合シ十一年度追加豫算建築費八萬參千五百六拾貳圓五拾錢初度調辨費貳萬貳千圓ヲ可決セリ然レトモ建築工事ハ前年度ヨリ繰越工事多ク且時日僅少ナリシヲ以テ同年度内著手ノ運ヒニ至ラスシテ大部分十二年度ニ繰越シタリ尙患者百五十人増員ニ伴ヒ敷地ノ狹隘ヲ感セルヲ以テ十二年三月現在敷地ニ接續セル東方山林四千六百六十四坪ヲ買收セリ

一大正十二年九月一日午前十一時五十八分關東地方ニ起リタル大震災ノ爲メニ本院ノ蒙リタル被害左ノ如シ

一號館事務所二三號館治療所ハ屋根ノ破損及壁ノ墜落甚タシ  
 藥庫及器具消毒室藥室ヨリ發火シタルモ直ニ消シ止メタリ原因ハ貯藏藥品ノ顛覆破壊シタル  
 ニ由ル  
 收容患者ハ直ニ院内及庭園中央ニ避難セシメ幸ニ壹名ノ死傷者ナシ  
 患者住宅禮拜堂並ニ重病室及新病室診察室(十二年新築ノ分)ハ屋根ノ破損及壁ノ墜落箇所甚タ  
 多シ  
 患者作業所兼娛樂所壹棟八拾坪)ハ倒潰シ折柄該室内ニ於テ作業中ノ患者六名壓セラレタルモ  
 直ニ匍ヒ出テ事ナキヲ得タリ  
 井戸水ハ一時白色ニ混濁シタルモ飲料ニ支障ヲ生セス  
 舊蒸汽機關ハ煉瓦崩壞ノ爲メ使用シ得サルモ他ノ汽罐大正八年建設ノモノニ故障ナカリシヲ  
 以テ辛ウシテ食料品支給並ニ消毒用ニ使用差支ナキヲ得タリ  
 建設中ノ汽罐ハ周圍ノ煉瓦ニ龜裂ヲ生シ前方へ突出シ大煙突モ亦中央部ニ龜裂ヲ生シタル箇  
 所アリ  
 職員住宅ハ瓦ノ破損壁ノ墜落箇所甚タ多シ  
 火葬場ハ煉瓦崩壞シ全ク使用ニ堪ヘス  
 一 大正十一年及十二年中落成シタル建物左ノ如シ  
 (十一年中) 一棟 十坪 一坪  
 醫務室附屬便所

同上 廊下	一棟	五合
患者住宅	三棟	百三十二坪
(十二年中)		
一時收容病室及重病室	一棟	九十四坪五合
同 附屬便所	一廉	十四坪
同 附屬洗面所	一廉	二坪
同 附屬臺所	一廉	三坪
同 附屬廊下	一廉	九坪五合
診察室	一棟	十三坪
患者面會所	一棟	六坪
炊事場物置	一棟	十坪
動物小舎標本置場	一棟	十二坪
看護人舍宅	一棟(三戸)	三十坪
火夫宿直室	一棟	六坪
患者共同便所	二棟	三坪
看護婦寄宿所増築	一棟	十坪

大正十三年

本年中落成シタル建物左ノ如シ

患者住宅	五棟	二百二十坪
汽罐室	一棟	二十四坪
水槽	一基	
監視所	一棟	二坪
女患者浴場及綳帶交換所	一棟	三十五坪
醫務室増築	一棟	十六坪五合
同 附屬渡廊下	一棟	三坪五合
洗濯所	一棟	十八坪
寢具被服物置	一棟	十三坪
患者作業所	一棟	十坪
看護人駐在所増築	一棟	一坪
醫員舍宅	一棟	二十坪
隔離病室	一棟	六十坪
炊夫宿直室	一棟	六坪二合五勺
渡廊下 <small>(普通病室ト救 容病室トノ間)</small>	一ヶ所	五坪五合
消毒用機關室増築	各一ヶ所	四坪五合
患者食品配給所	一棟	十二坪

火葬場

計

一棟	十二坪
計	四百六十坪二合五勺

大正十四年

一十月東京ニ於テ開催セラレタル極東熱帶醫學會及國際聯盟各國衛生技術官交換會議ニ列席ノ各會議員來院親シク視察ヲ了セララル

一本年中落成シタル建物ハ左ノ如シ

表 門	一基	
禮拜堂	一棟	百二十八坪
職員浴場(増築)	五坪	

大正十五年

一六月八日書記横田久ハ癩療養所主事奏任待遇ニ補セラレ同日全生病院主事ヲ命セララル

一二月九日新禮拜堂ノ開堂式ヲ舉行シ舊禮拜堂ニ安置セル御神體ヲ奉遷シ次テ三月五日ニ眞宗五月二十日ニ日蓮宗六月四日ニ眞言宗ト順次各本尊ヲ新禮拜堂ニ遷シ各本山並ニ宗務院ヨリ高僧ヲ派遣セラレ莊嚴ナル遷佛式ヲ行ヘリ

一十一月十一日午前一時頃患者住宅松舎一號室ノ押入附近ヨリ發火シ同舎一棟四十三坪五合ヲ燒失セルモ患者中一名モ負傷者ヲ出サ、リシハ不幸中ノ幸ナリキ

一 本年中新築セル建物ハ  
 應接所兼參觀人控所 一棟 二十二坪  
 同 附屬便所並ニ渡廊下 六坪

昭和二年

一 患者收容數年々増加スルニ伴ヒ敷地擴張ノ必要ヲ生シ三月中地主ト協議ノ上隣接民有地貳萬五千百六拾叁坪ヲ買収セリ

一 同年中落成ノ建物ハ左ノ通り

看護長住宅	一棟	十六坪五合
雇員及調劑助手住宅	一棟	三十坪
盲患者住宅	一棟	六十一坪一合六勺六才
職員浴場増築		二坪五合
普通病室改築		四十坪
同 廊下		十三坪

大五 普通病室ハ開院當時ノ建築ニカ、リ腐朽甚シク到底患者ヲ收容シ得サルヲ以テ患者ノ手ニ依リテ之ヲ改築スルト同時ニ患者炊事場二十坪ノ新築ヲナシタリ

昭和三年

一 收容患者百五十名増員ノ爲メ左ノ建物ヲ増築セリ

重病室	一棟	百三十一坪
同 渡リ廊下		十五坪
患者住宅	五棟	二百二十坪
同 附屬物置	五棟	十坪
寢具及被服物置	一棟	十五坪
炊事場物置	一棟	十五坪
醫局及圖書室	一棟	二十四坪
醫員調劑員書記住宅	三棟	四十九坪五合
看護婦合宿所	増築	十三坪
職員浴場	増築	二坪五合
井戸	三ヶ所	

一 尙患者ノ手ニヨリ重病室一棟四十坪ヲ改築更ニ患者住宅七坪五合ノ増築ヲ行ヒ患者作業場四十八坪ノ増築ニ著手セリ

昭和四年

一 本年中落成シタル建物ハ左ノ通り

汽罐室	一棟	三十九坪
-----	----	------

汽罐用井戸ポンプ室	(改築)	六坪
診察室	一棟	四十二坪
試験室	一棟	二十四坪
同 附屬渡り廊下		二坪
藥庫及製藥消毒兼試験室	(増築模様替)	六坪七合五勺
前試験室	(移轉模様替)	十八坪
空氣瓦斯タンク置場	一棟	三坪
物品交附所兼物品藏置所	(移轉模様替)	十三坪七合五勺
同 所	(増築)	七坪五合
看護人駐在所	(移轉模様替)	八坪七合五勺
同	(増築)	三坪
診察室附屬渡り廊下	一棟	三坪五合
二號館及手術室	(模様替)	四十二坪
事務所小使室	(増築)	二坪
醫員舎宅浴場	(増築)	一坪五合
脱衣所兼浴場	(増築模様替)	十七坪五合
自動車車庫	一棟	十二坪
看護婦食堂	一棟	十七坪五合

一 右ノ外患者ノ手ニヨリ増築シタルモノハ

娛樂室	(増築)	四十八坪
患者住宅	(菊舎増築)	七坪五合
綑帶交換所	(模様替)	三十五坪

一 本年中ノ施設トシテ試験室ノ増築ヲナスト共ニ理化學的療法ノ設備ヲナシ追加豫算ニヨリ排水工事ヲ完成シ又給水方法トシテ深度三五〇尺以上ノ鑿泉ト壓搾タンクヲ新設セリ

防火設備ノ爲メ院内ニ消火栓ヲ敷設シ又消毒物ノ完全ヲ期センカ爲メニ汽罐ノ増設ヲナシ消毒場洗濯場乾燥室等ノ改築ニ著手セリ從來患者ノ輸送ニ際シテハ一方ナラサル不便ヲ感セシヲ以テ患者輸送自動車壹輛ヲ購入シ收容ノ際ハ品川赤羽三河島八王子兩國等ノ各驛マテ出向セシムルヲ以テ多大ノ便利ヲ得ルニ至レリ

一 本年新ニ消防團少年團少女團等ヲ編成シ制規ノ服裝ヲナサシメ輕快ナル動作ニヨリ院内ノ奉仕作業ニ從事セシメ一般患者ノ品性ノ陶冶風紀ノ改善ニ努力セリ

一 患者ハ從來其ノ所在ヲ他ニ漏レサル様苦心シ種々僞名ノモトニ家族等ト音信ヲナシ來タリシモ、本年新ニ郵便局内ニ私書函ヲ設置シ又送金ヲ便ナラシムル爲メニ病院名ノ記載ヲ省キ特ニ秋津クラブノ名稱ヲ付シ振替口座ニ加入シタルヲ以テ患者並ニ家族ハ非常ニ喜悅シ安心シテ通信スルニ至レリ

一 九月二十八日ハ本院創立滿二十周年ニ相當スルヲ以テ之カ記念式ヲ舉行セリ

## 昭和五年

一 皇太后陛下ニハ夙ニ癩病者ヲ御憐憫畏クモ日々ノ供御並ビニ御調度品ヲ御節約遊ハサレ十一月十日 昭憲皇太后陛下ノ御名ニ於テ收容患者慰安ノ爲メ金五千圓ヲ御下賜アラセラレ尙ホ多年本病者ノ救療ニ從事シタル職員ニ對シ金品御下賜ノ恩命アリ十二月六日東京府廳ニ於テ傳達式ヲ舉行セラル其ノ光榮ニ浴シタル者院長光田健輔外十三名ナリ

一 收容患者定員ハ九百人ナルモ常ニ千有餘人ヲ收容シ尙ホ聯合府縣ヨリノ申込數常ニ五十名ヲ下ラス直接入院希望者亦益々増加セルヲ以テ八月ノ各府縣協議會ニ於テ來年度ヨリ百人ノ増員ヲ可決シ之ニ伴フ重病舎一棟患者住宅三棟ノ増築ニ著手セリ

一 同年中落成シタル建物ハ左ノ通り

唧筒室

一棟 八坪

屍室及汚物置場

(増築模様替)

十二坪

洗濯場消毒場裁縫場未消毒既消毒品置場乾燥室

二階建一棟 七十二坪

隔離病室

増築一棟

六十七坪

## 昭和六年

一 三月十六日院長光田健輔ハ本職ヲ免セラレ國立癩療養所長島愛生園長ニ轉補セラレタルヲ以テ東京府衛生課長輕部修伯院長事務取扱ヲ命セラレ五月五日醫員林芳信醫長ニ任セラレ同日院長

ヲ命セラレ、ト同時ニ輕部院長事務取扱其ノ職ヲ解カレタリ

三月二十五日醫員林文雄本職ヲ免セラレ、ト共ニ長島愛生園ニ轉任シタリ其ノ他醫務囑託員職員看護人ニシテ長島愛生園ニ轉シタル者五名アリ

### 一 敷地擴張

患者増員ニ伴ヒ敷地擴張ノ必要アリ聯合府縣ノ承認ヲ經テ七月現在敷地ノ北方ニ接續セル南秋津字中原山林九千四百七十三坪ヲ買收シタリ

### 一 定員増加並ニ移動

三月二十五日患者男女合計八十一名ヲ國立長島愛生園ニ移送シタリ

本年度ニ於テ收容定員百名増加シ千名トナリタルヲ以テ患者住宅三棟重病室一棟ノ増築ヲナシ患者ノ補充ニ力ヲ致シ一ケ年間ノ收容數ハ實ニ二百五十名ニ及ヒ年末現在數千九十二名ニ達シタリ如斯多數患者ヲ收容シタルコトハ開院以來未ダアラサリキ

### 一 財團法人全生互惠會ノ設立

畏クモ 皇太后陛下ニハ常ニ癩事業ニ關シ御軫念遊ハサレ昭和五年十一月十日癩患者及ヒ多年本事業ニ從事セル職員ニ對シ御下賜金並ニ御下賜品ノ事アリ本院ニ於テハコノ有難キ思召ヲ記念センカ爲メニ御下賜金ヲ基トシ諸般ノ寄附金收容患者ノ設立ニカ、ル全生賣店農會試作部山櫻出版部互惠部等ノ積立金品ヲ合シ財團法人全生互惠會ヲ設立シ其ノ筋ニ願出タル所四月二十五日付許可セラレタルヲ以テ六月二十六日多數名士ノ來院ヲ得テ設立祝賀式ヲ舉行セリ

### 一 看護人看護婦講習所設立

看護人ノ採用ニ關シテハ收容患者ガ特殊ノ疾病ナルヲ以テ採用ノ困難ナルト共ニ技術取扱等ニ  
 缺クル所アルニヨリ看護學講習設備ノ必要ヲ認メ大正四年八月東京府へ設立ノ申請ヲナシタル  
 モ經費其他ノ關係上許可セラレサリシカ昭和五年十二月十三日再ヒ上申シタルニ同十七日付ニ  
 テ許可セラレタルニヨリ同六年一月十五日警視廳へ申請二月二十八日指定セラレタルヲ以テ五  
 月二十九日第一回講習生ノ卒業式ヲ舉行シタリ

一 患者教育舎新設

患者教育舎ノ必要ヲ認ムル事多年漸ク本年七十坪二合五勺ノ校舎ヲ新築シタルヲ以テ十一月十  
 三日落成式ヲ兼テ學藝品展覽會ヲ開催セリ、集マル所一道二府十二縣、臺灣、南滿洲、加奈陀等ニシテ  
 千三百點ニ及ベリ

一 同年増築シタル建物左ノ如シ

- 患者住宅 三棟 百三十二坪四合八勺
- 同 物置 三棟 六坪
- 重病室 一棟 六十坪
- 同 附屬渡リ廊下 三坪
- 精神病室 一棟 六十坪
- 教育舎 一棟 七十坪二合五勺
- 寢具及被服物置 一棟 二十坪
- 患者食品配給所 (増築) 二十三坪

消防用器具置場及患者控所

禮拜堂用便所

- 一棟 六坪
- 一棟 二坪

患者食品配給所以下ハ患者ノ手ニヨリ建築シタルモノ

四百三十坪六四五〇枚

道路敷石

昭和七年

一 昨六年十一月財團法人癩豫防協會ヨリ患者相談所二棟ノ建築方ヲ依頼シ來リシヲ以テ東京府ノ  
 許可ヲ得テ工事ニ着手シ五月下旬竣工七月一日ヨリ開所シ年末ニハ九名ノ患者ヲ收容セリ尙ホ  
 同協會ヨリ四棟ノ増築方ヲ申來リシヲ以テ直ニ工事ニ著手セリ

一 財團法人全生互惠會藤蔭靜枝嬢寄附ノ患者住宅一棟十八坪五合ヲ患者ノ手ニヨリ工事中ノ處十  
 一月竣工シタルヲ以テ藤蔭寮ト命名シ男年少者ヲ收容セリ

一 明治四十二年建設シタル患者住宅十棟ハ腐朽甚クシク到底患者ノ收容不可能ナルヲ以テ本年度  
 内ニ五棟ノ改築ニ着手シタル所三棟百三十二坪五合一勺ノ工事終了セシヲ以テ患者ヲ收容セリ  
 一 本年中増築シタル建物ハ前記ヲ除ク左ノ如シ

- 電氣室 一棟 七坪五合
- 看護婦浴室及脱衣室 一棟 二十九坪二合五勺
- 精米精麥患者作業所 一棟 十八坪五合
- 外來患者診療所兼待合所 一棟 六坪

配食器消毒所

一棟

七坪五合

同上渡廊下

七合五勺

昭和八年

一 運動場開キ 四月十三日豫テ院内北隅ニ工事中ノ運動場竣工ニ付グラウンド開キヲ舉行セリ

一 全生相談所患者住宅竣工 昨年建築ニ著手セシ癩豫防協會相談所患者住宅四棟ハ全部竣工セリ而シテ昨年竣工ノ分ト合スレバ六棟一〇三四四坪トナリ年末現在ノ收容患者數二十人内男十四人女六人トナレリ

一 御歌記念碑除幕式 畏クモ 皇太后陛下ニハ昭和七年癩患者ヲ慰メテ下ノ御兼題ヲ仰出サレつれづれの友となりても慰めよ

行くことかたきわれにかはりて

トノ御歌ヲ御詠シ遊ハサレタリ

本院ニ於テハ其ノ御歌詞ヲ永ク記念センカ爲寄附金ヲ以テ歌詞ヲ刻ミタル御坤德記念碑建設ヲ企テ十一月十日ソノ竣工ヲ見タルニ依リ入江皇太后宮太夫閣下、鹿兒島宮内省總務課長閣下、大島内務省衛生局長閣下、香坂東京府知事閣下、清閑寺皇太后宮事務官殿始メ其他多數名士御臨場ノ許ニ盛大ナル除幕式ヲ舉行セリ

一 患者住宅改増築 明治四十二年ノ建築ニ係ル患者住宅ハ腐朽甚ク使用困難トナリシヲ以テ昨年度ニ於テ五棟ノ改築ヲ爲セシカ本年ハ残り四棟ト夫婦舎ト改築セリ、夫婦舎ハ從來一棟ナリシヲ二棟ト爲シ其他普通病舎一棟ノ増築並ニ看護婦寄宿舍一棟ノ新築ニ着手セリ

一 竣工セシ建物ハ左ノ通り

普通患者住宅

二棟改築

八十八坪三合四勺

夫婦患者住宅

二棟改築

七十坪三合七勺

收容定員增加年度

年度別	收容定員
明治四十二年度	三〇〇
大正元年度	三五〇
大正四年度	四〇〇
大正七年度	五〇〇
大正十一年度	六〇〇
大正十三年度	七五〇
昭和三年度	九〇〇
昭和六年度	一〇〇〇

職員異動表

任命年月	摘要	退職年月	職名	氏名
明治四十二年四月		明治四十三年三月	院長事務取扱	大野徳太郎





大正十三年一月二十二日	調劑員	本莊平治
同 年七月三十一日	看護婦長	石渡ふと
同 年九月十二日	看護長	後澤長四郎
同 年十月一日	書記	伊藤菊司
同 年十一月三十日	醫員	渡邊源次郎
大正十四年四月二十三日	同	員 鎗田榮
同 年六月五日	同	許 海老澤五郎
同 年八月十一日	書記	西原ツボミ
同 年十月三十日	醫員	望月隆三
同 年十一月三十日	同	大熊卯之吉
同 年十二月三日	同	同 橫田久
同 十五年六月八日	療養所主事	員 五十嵐正
同 年七月二十一日	醫員	島 憲藏
同 年十月四日	同	昭和三十二年十二月
昭和二二年五月二十八日	書記	大川賢太郎
同 三年十月十六日	醫員	鹽沼英之助
同 四年四月十五日	調劑員	大山繁隆
同 年六月十二日		

長島愛生園醫官ニ轉セラル

昭和七年九月石川縣へ出向ヲ命セラル

同 年八月十二日	書記	上田末吉
同 五年六月十五日	醫員	大西富美子
同 六年三月十六日	院長事務取扱	輕部修伯
同 年五月五日	療養所長	林 芳信
同 七年一月二十八日	醫員	中島俊之
同 年四月十四日	療養所主事	廣田安次郎
同 年十一月十八日	醫員	齋藤春雄
同 年十二月十日	同	長谷川久次
同 八年六月十日	同	藤田敬吉
同	同	阿部秀直
同 年八月三十一日	書記	永井兎道
同 九年五月十八日	療養所主事	石橋伊八

第二 概況

一敷地坪數 九萬〇五百拾壹坪

病院敷地 九萬四百六拾壹坪

患者一時溜所敷地 五十坪

年報

二建.物坪數(一六二棟) 四千七百二十三坪六合三才

內

一號館(事務所支關共)	一棟	百二十六坪九合
同 (附屬便所)	一棟	三坪七合五勺
同 (應接所兼參觀人控所)	一棟	二十二坪
同 (附屬便所)	二坪	
同 (渡り廊下)		三十八坪六合
二號館(醫務室)	一棟	三十坪
三號館(治療室)	一棟	五十四坪
試驗室	二棟	四十二坪
同 附屬渡り廊下	二坪	
同 附屬渡り廊下	一坪	
同 附屬渡り廊下	一坪	
各館便所	九棟	六坪五合三勺
同 渡廊下	一棟	十五坪二合五勺
裁縫所及物品藏置所	一棟	二十五坪
同 渡廊下	一棟	九坪
物置事務所所用	一棟	五坪
醫務室	一棟	二十二坪五合

同 渡廊下	一棟	八坪五合
醫局及圖書室	一棟	二十四坪
手術室	一棟	九坪
同 渡廊下	一棟	二坪
脫衣所	一棟	五坪
脫衣所及浴場	一棟	十七坪五合
一時收容病室及重病室	一棟	百十三坪五合
同 附屬廊下	一棟	九坪五合
重病舍	二棟	百九十一坪
同 附屬渡廊下	二棟	十八坪
診察室	二棟	五十五坪
同 附屬渡廊下	二棟	三坪五合
普通病室	三棟	百四十三坪五合
同 渡廊下	三棟	五坪五合
空氣瓦斯タンク置場	一棟	三坪
動物小舍及標本置場	一棟	十二坪
患者面會所	一棟	六坪
監禁室及謹慎室	一棟	十七坪

監視所(監禁室用)	一棟	二坪
藥庫及器具消毒室	一棟	二十六坪七合五勺
製藥消毒兼試驗室	一棟	十六坪
炊事場	一棟	四十三坪五合
物置(炊事場用)	五棟	五十二坪
炊夫宿直室	一棟	六坪二合五勺
患者炊事場	一棟	二十坪
汽罐室	一棟	六十三坪
消毒所汽罐室	二棟	五十五坪五合
汽罐用井戸ポンプ室	一棟	六坪
火夫宿直室	一棟	六坪
洗濯所	一棟	十八坪
洗濯仕上所兼乾燥室	一棟	十坪
物品交附所兼物品藏置所	一棟	二十一坪二合五勺
物置(物品交附所用)	一棟	二坪
物置(寢具被服其他用)	三棟	三十五坪
普通患者住宅	三二棟	千四百廿四坪二合七勺六才
夫婦患者住宅	二棟	七十坪三合七勺

患者住宅附屬物置	九棟	十八坪
隔離病室	二棟	百〇一坪五合
新隔離病室	一棟	六十坪
患者作業所兼娛樂所	一棟	五十四坪二合五勺
患者浴場(男子用)	一棟	八十一坪
患者浴場及縋帶交換所(女子用)	一棟	三十五坪
特別室	一棟	三十五坪
看護人駐在所	一棟	十六坪二合五勺
禮拜堂	一棟	十一坪七合五勺
舊禮拜堂	一棟	百二十八坪
患者食品配給所	一棟	七十二坪
屍室及汚物置場	一棟	三十五坪
汚物燒却場	一棟	二十坪
監視所	一棟	三坪
患者共同便所	一棟	二坪
見張所	三棟	四坪
通用門駐在所	四棟	一坪七合七勺七才
豚小屋	一棟	一坪二合五勺
	二棟	十坪五合五勺

動物飼育舍	一棟	十四坪
假綑帶交換所	一棟	七坪五合
假浴場	二棟	八坪
火葬場	一棟	十二坪
物置(舊火葬場)	一棟	十二坪
患者一時溜所	一棟	九坪
門衛所	一棟	十三坪七合五勺
自動車庫	一棟	十二坪
所長舍宅	一棟	三十八坪七合五勺
醫長舍宅	一棟	三十四坪
書記長舍宅	一棟	二十七坪五合
醫員舍宅	二棟	三十八坪
書記舍宅	二棟	九十五坪
醫員調劑員舍宅	三棟	百十五坪五合
看護長舍宅	一棟	十六坪五合
機關手及雇員舍宅	一棟	六十坪
雇員調劑助手舍宅	一棟	三十坪
看護人舍宅	二棟	五十九坪五合

看護人寄宿所	二棟	六十坪
看護婦食堂	一棟	十七坪五合
職員浴場	一棟	十五坪
唧筒室	一棟	八坪
洗濯場消毒場裁縫場未消毒既消毒品置場乾燥室	一棟	七十二坪
精神病室	一棟	六十坪
消防用器具置場及患者控所	一棟	六坪
寢具及被服物置	一棟	二十坪
教育舍	一棟	七十坪二合五勺
禮拜堂用便所	一棟	二坪
電氣室	一棟	七坪五合
外來患者診察所兼待合所	一棟	六坪
精米精麥患者作業所	一棟	二十四坪
看護婦浴室及脫衣室	一棟	二十九坪二合五勺
配食器消毒所	一棟	七坪五合
同 渡廊下	一棟	七合五勺

醫長兼院長	林芳信	本莊平治
主事	石橋伊八	大山繁隆
醫員	鹽沼英之助	海老澤五郎
同	西原ツボミ	望月隆三
同	五十嵐正吉	大川賢太郎
同	藤田敬	永井晃道
同	阿部秀直	上田末吉
同	長谷川久次	石渡と
同	齋藤勝助	後澤長四郎
調劑員	齋藤勝助	後澤長四郎
機關手	一	炊火夫
雇手	六	洗濯夫
調劑助手	二	洗濯婦
工手	一	洗濯婦
囑託	二	裁縫
看護	一五	雜役
看護人	一八	電氣
給仕	一	臨時
小使	六	雜役

四 收容定員及現在數

定員 壹千人

年末現在數 壹千五拾人男七百四拾參人 女參百七

五 本年中ニ生シタル重要事項

一看護婦講習所卒業式

三月三十日第四回卒業式ヲ舉行ス卒業者ハ池上スエ、川合幾代ノ二名ナリ

一永代神社大祭

豫テ慰安會ニ於テ建設中ナリシ神社竣工シ寄附セラレタルヲ以テ伊勢皇太神宮、豊受大神宮、明治神宮ノ御三柱ノ御神靈ヲ奉戴シ五月二十二日夜九時ヨリ全職員參列古式ニ則リ遷宮式ヲ舉行シ翌二十三日午後二時半ヨリ大祭ヲ執行セリ

而シテ當日鹿兒島宮内省總務課長閣下、清閑寺皇太后職事務官殿、高野内務省豫防課長殿、輕部東京府衛生課長殿始メ多數ノ名士參列サル

一楓苗木御下賜

五月二十六日 皇太后陛下ヨリ楓苗木百五十本御下賜ノ御沙汰アリ院長大宮御所ニ伺候拜受シ職員患者一同ニ傳達ノ上院内ニ移植セリ

一第三區外島保養院患者委託

九月二十一日中國近畿地方ヲ襲ヘル大暴風雨ノ爲メ外島保養院ハ不幸ニモ津浪ヲ襲來ヲ受ケ

改築殆ント成リテ十一月移轉スルノ豫定ナリシ主要建物及舊建物全部潰滅ニ歸シタルヲ以テ生存患者ヲ全國各療養所ニ委託スルコトナリ本院ニハ九月二十七日五拾名十月九日二十名合計七拾名ノ患者ヲ委託收容セリ

一 第一號館事務所ノ改築落成

五月起工以來數箇月ヲ要シタル事務所本館竣工シ十一月十一日其落成披露ヲ催シタルニ輕部東京府衛生課長外官民多數來觀セララル

一 名士ノ視察及慰問

四月八日釋尊降誕會ニ際シ海軍中將佐藤鐵太郎閣下來院院内少年少女消防團ヲ御檢閲ノ後禮拜堂ニ於テ患者一同ニ對シ講話セララル

六月一日香坂東京府知事閣下ハ衛生課長外一名御隨伴院内ヲ視察セララル

九月十三日林陸軍大臣閣下ハ副官ヲ御隨伴御坤德禮讚會會長子爵三室戸閣下同副會長阪東止

女子女史御夫妻ノ案内ニテ本院内ヲ御視察セラレ各團體ヲ御檢閲ノ後全患者ニ御講話アリタ

リ十月二十三日御會式ニ際シ陸軍中將兩角三郎閣下ハ日蓮宗管長代理深川觀察貌下外多數ノ

名士御同道小野練雄氏ノ案内ニテ本院各團體御檢閲ノ後患者ニ講話セララル

十一月十九日陸軍中將小林道生閣下海軍少將柴山司馬閣下ハ阪東長康氏夫妻ノ案内ニテ本院

内ヲ視察セララル

一 第一號館其他ノ改増築

明治四十二年ノ建築ニカ、ル事務所ハ狹隘且ツ腐朽セシ處本年度ニ於テ新築工成リ從來ノ面目ハ一新セラレ更ニ昨年ヨリ引續キ改増築ナリシ看護婦寄宿舍一棟(増築)患者住宅三棟(改築一)ハ全部竣工セリ

一 寄附ヲ受ケタル建物

一 神社 本院患者慰安會事業トシテ患者ノ手ニヨリ建築中ナリシ神社一棟一坪(家根銅板神明造リ)ハ五月ヲ以テ全部落成セシヲ以テ同會ハ之ヲ本院ニ寄附シタリ

一 患者住宅 東京市本郷區駒込東片町宇都野研氏ヨリノ指定寄附ニ依リ院内(財團)全生互惠會

ニ於テ建築中ナリシ患者住宅一棟二十二坪二合五勺ハ七月ヲ以テ竣工セシニ依リ其ノ一切

ト共ニ同月二十五日之ヲ本院ニ引繼カレタリ

一 本年中ニ竣工シタル建物左ノ通り

一 患者住宅 二棟 (改築) 八十八坪三合四勺

一同 一棟 (新築) 四十四坪

一看護婦寄宿舍 一棟 (新築) 二十八坪

一本館事務所 一棟 (新増築二階建) 百二十六坪九合

一 附屬便所 一棟 (新築) 三坪七合五勺

一 附屬渡廊下 三棟 三十七坪六合

一 職員異動

四月二十五日書記大熊卯之吉願ニ依リ本職ヲ免セララル

五月十八日主事廣田安次郎願ニ依リ本職ヲ免セラル  
 五月十八日石橋伊八療養所主事ニ任セラレ本院主事ニ補セラル  
 七月十日醫員齋藤春雄願ニ依リ本職ヲ免セラル

第三 總 經 費

一、豫 算

歳入經常部

科 目	昭和五年度	昭和六年度	昭和七年度	昭和八年度	昭和九年度
科 目					
不用品賣拂代	四九〇〇〇	四九七二	四七五〇	四七五〇	四七五〇
救護費辨償金	九六三三四〇	一〇、四七七七四	二〇、八〇〇	二〇、八〇〇	二〇、八〇〇
患者遺品金	二五二、四三三、一〇〇	二九〇、六九八、〇〇〇	二二八、八九五、二二二	二二八、二六六、六六五	二四三、三〇四、六六五
各府縣分擔金	三、四九九六	三、四九九六	三、三三五〇	三、三三五〇	三、三三五〇
職員納付金	三、四九九六	三、四九九六	三、三三五〇	三、三三五〇	三、三三五〇
合 計	二六二、四六三、四四六	三〇一、九五五、四一	二二九、二七七、〇三三	二二三、二〇一、四四五	二四八、二九九、四四五

歳入臨時部

科 目	昭和五年度	昭和六年度	昭和七年度	昭和八年度	昭和九年度
科 目					
線越附金	一一、二一〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	二五、一四二、七八	二一、八六五、〇〇	一、四三三、〇〇〇
寄附金	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
合 計	一一、二二一、〇〇〇	一〇一、〇〇〇	二五、一四三、七八	二一、八六六、〇〇〇	一、四三四、〇〇〇
歳入總計	二七三、六八四、四四六	三〇一、六七六、四一	二五四、四一九、八〇	二四五、〇六七、四五	二四九、六四三、四五

歳出經常部

科 目	昭和五年度	昭和六年度	昭和七年度	昭和八年度	昭和九年度
科 目					
俸給	三、四九九、六〇〇	三、四九九、六〇〇	三、三三五〇、〇〇〇	三、〇三五八、〇〇〇	三、〇三五八、〇〇〇
雜者給	五〇、八二七、五〇〇	五〇、八八六、六〇〇	五〇、六四五、五〇〇	五二、七八九、五〇〇	五二、七八九、五〇〇
試驗費	一一、二五九、一七〇	一一、〇八八、六七〇	二六、七六〇、二〇〇	一、六二〇、一九五	一一、〇六六、四九五
救護費	八七三、五五五	八七三、五五五	八七三、五五五	八七三、五五五	八七三、五五五
修繕費	五、四〇〇、〇〇〇	五、四〇〇、〇〇〇	七、六八七、四〇〇	六、九八七、四〇〇	六、九八七、四〇〇
雜給	七、六八七、四〇〇	七、六八七、四〇〇	二、三三三、七五五	二、一七一、〇〇〇	二、一七一、〇〇〇
恩給	二、七四六、二四六	二、七四六、二四六	二、七三三、六〇〇	一、三三三、九〇〇	一、八四九、〇〇〇
豫備費	二七三、六〇〇	二七三、六〇〇	二七三、六〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
合 計	二四、一一二、二二一	二四、九四六、四一	二三、八九二、七八〇	二三、六一九、三四五	二三、六一九、三四五

備考 △印ハ癩豫防協會委託患者ニ對スル治療品費及食費ナリ



歳出臨時部

科	目	昭和五年度	昭和六年度	昭和七年度	昭和八年度	昭和九年度
建	築費	26,562.25	42,112.00	22,922.00	18,873.00	13,500.00
初	度調辨費	6,000.00	10,000.00			
合	計	32,562.25	52,112.00	22,922.00	18,873.00	13,500.00
歳	出	273,674.46	301,676.41	254,419.80	255,066.45	249,693.45

二、決算

歳入臨時部

科	目	昭和四年度	昭和五年度	昭和六年度	昭度七年度	昭和八年度
不	用品賣拂代	100.00				
救	護費辨償金	16,031.31	16,974.77	5,278.25		
患	者遺留金					
各	府縣分擔金	24,142.97	25,243.10	29,698.00	228,895.22	228,266.65
職	員納付金	30,400.00	33,039.00	22,177.00	228,620.00	272,800.00
合	計	257,775.05	299,736.26	296,208.02	229,623.49	230,399.26

歳入臨時部

科	目	昭和四年度	昭和五年度	昭和六年度	昭和七年度	昭和八年度
繰	越金	49,592.92	16,672.87	22,241.78	47,005.84	23,317.73
其	他					
合	計	49,592.92	16,672.87	22,241.78	47,005.84	23,317.73
歳	入	307,367.97	286,408.47	318,449.87	276,629.37	253,715.97

歳出經常部

科	目	昭和四年度	昭和五年度	昭和六年度	昭和七年度	昭和八年度
俸	給	30,433.27	33,060.50	23,197.38	23,881.17	27,324.46
患	者給	52,246.25	54,218.55	52,354.38	62,816.12	53,928.98
試	験者給	19,474.68	10,740.52	10,893.33	11,934.25	12,046.13
救	護費	7,282.85	7,275.22	5,570.22	6,570.04	7,141.66
修	繕費	5,187.46	5,121.63	1,905.92	7,686.41	6,602.53
雜	費	8,185.62	7,686.58	9,024.05	7,686.41	23,570.62
恩	給	31,337.90	23,177.84	23,568.10	22,314.02	13,633.33
豫	備		2,025.00			
合	計	147,598.41	225,742.41	219,537.88	230,819.60	232,196.38

備考 △印ハ癩豫防協會委託患者ニ對スル治療品費及食費ナリ

科 目	昭和四年度	昭和五年度	昭和六年度	昭和七年度	昭和八年度
建設費	四三〇九七・三八	二四、七四四・二五	四一九〇六・七八	二二、四九二・〇〇	一八、八七三・〇〇
初度調辨費	—	六、〇〇〇・〇〇	一〇、〇〇〇・〇〇	—	—
合計	四三〇九七・三八	三〇、七四四・二五	五一九〇六・七八	二二、四九二・〇〇	一八、八七三・〇〇
歳出總計	二九〇、六九五・七九	二六四、一六六・六六	二七、四四三・九六	二五、三三二・六〇	二五、一八三・三八

第四 患者一人當經費

年 次	經常部決算		食費決算		治療費決算		被服費決算		當該年度中收容患者延數
	總額	一日當人	總額	一日當人	總額	一日當人	總額	一日當人	
大正拾參年度	二〇九、五五三・五一	九二四	五四八、〇五四	二四一	一三五、三三二・二一	五九	四八七、六二八	二二	二、六六〇
大正拾四年度	一九二、五七二・〇〇	七四七	五三、七九〇・八四	二〇九	一五四、二七一・一七	六〇	三三八、五三〇	一一	二、五七〇・七七
大正十五年	一九七、三六一・六七	六九八	五五、一六四・七三	一九五	一六一、九八八・八	五七	六三三、九四九	一一	二、八二四・四六
昭和元年度	二〇八、四八四・六	七〇二	五七、五三七・七五	一九三	一七四、九〇九・七	五八	五、六五〇・七一	一九	二、九六八・三三
昭和貳年度	二二四、五八四・三七	七〇〇	六六、六七四・四一	二〇七	二〇二、四〇六・九	六三	三、一四四・九七	九	三、二〇六・八二
昭和參年度	二四七、五八四・八一	七一一	六九、二九一・一一	一九九	二〇、七六三・七八	五九	六、二六六・八四	一八	三、三七六・七〇
昭和四年度	二二二、三三二・二四一	六七一	六二、一三六・九七	一六一	二〇、八六六・三七	五五	四、六九二・二八	一一	三、七八一・六六
昭和五年度	二二九、三三七・七八	五七四	五七、六一五・九七	一六〇	二二、三二一・八九	五八	五、六五四・五五	一一	三、八一、九一七
昭和六年度	二二〇、三三二・三五	五七七	六一、〇六一・一四	一五三	二二、九八九・七一	五七	五、四二八・六一	一一	三、九八二・九八
昭和七年度	二二二、九六三・三八	五七五	六四、八四六・二四	一五八	二二、八六七八・七	五六	六、三九九・三二	一六	四、〇三三・七五

備考 一、當該年度中收容患者延數欄△印ヲ付セルハ癩豫防協會委託患者延數  
 二、一人當經常費中食費及治療品費算出ハ癩豫防協會患者延數ヲ加算算出セリ

第五 治療

治療ハ七人ノ醫員分擔スル所ニシテ便宜ノ爲メ内科外科眼科耳鼻咽喉科理學的診療科及繃帶交換所ノ六科ニ分チ更ニ昭和八年度ヨリ齒科醫一名ヲ囑託シ齒科口腔科ヲ設ケタリ。  
 内科ニ最モ多ク來ル病症ハ癩菌ノ破潰吸收スルトキニ發スル癩性結節性紅斑ニシテ此ノ際神經痛及關節痛ヲ伴フコト多シ此症ハ患者ノ一言ニ熱瘧ト唱フル病症ニシテ其ノ持續スルコト數週ヨリ數年ニ亘リテ反覆シ煩ハシキ發疹發熱ニ伴ヒ其ノ經過中遂ニ衰弱シテ肺結核肋膜炎腸結核腹膜炎等ノ結核菌ノ混合傳染ニヨリテ來ル病症ヲ誘發シ死因トナルコト多シ。癩性結節性紅斑ノ療法ハ其ノ輕キモノハ三〇%クロールカルチウム液二〇瓦ノ靜脈内注射ヲ毎日施スコトニヨリ最モ良好ノ結果ヲ來ス。又劇シキ關節痛ヲ伴フモノニ銀エレクトロイド五〇ノ皮下或ハ靜脈内注射ヲ施シ相當効果ヲ納メツ、アリ。其他癩性腎臟炎ハ又數々發見スル疾患ニシテ死因トナルモノアリ。  
 外科的ニハ癩結節潰瘍ノ喉頭ニ來ルタメニ窒息ヲ起シ死因トナルコト多キヲ以テ氣管切開術ヲ施シ此レヲ救助スルコト多シ、又結節癩神經癩共ニ手足ノ癩疽火傷及足穿孔症ヲ發シ易ク之カ爲ニ指骨及足根骨趾趾骨ノ「ネクローゼ」ヲ來シ此レヲ除去セサルベカラサルノミナラズ下腿ノ切斷手術ヲ要スル者尠ナカラス、此レニヨリ全身ノ敗血膿毒症ヲ救フモノナリ。又患者ノ最モ苦痛トスル癩性神經痛ニ對シ神經鞘剝離術ヲ行ヒ概ネ良好ナル結果ヲ得ツ、アリ。

眼科ニテハ癩性角膜炎、外鞏膜炎、虹彩毛様體炎、續發白內障ノ爲メニ失明スル者尠カラズ、此レニ適應スル手當ハ最モ必要ナリトス、殊ニ虹彩切徐術ハ瞳孔閉鎖症及角膜濁ノ瞳孔領ヲ覆フモノニハ推獎スヘキ手術ナリ。

失明者數

		收容現在數	失明者數
男		七四三	一四七
女		二〇七	四六
合	計	一、〇五〇	一九三

備考 失明者ハ兩眼共一米ノ距離ニ於テ指數ヲ辨シ得サル程度以下ノモノ、病型別ハ神經癩男四名他ハ全部結節癩ナリ。

耳鼻咽喉科ニ於テハ鼻腔咽喉粘膜ハ癩ノ好發部位ナルヲ以テ此ノ部ノ治療ニハ特ニ細心ノ注意ヲ拂ヒツ、アリ。

重症病室 癩重症者或ハ合併症ノ爲メ自ラ起臥スルコト困難ナル者ハ重病舎ニ收容ス、重病舎ハ十一室ニシテ百九十三床ヲ具ヘ各受持ノ醫員看護婦ヲ配置シ、猶輕症ノ患者ヲ晝夜枕頭ニ附添ハシメテ食物藥品ノ給與衣食ノ交換、入浴、便器等ノ世話ヲナサシメ居レリ。

大風子油ノ注射 本院ニテハ開院以來日本藥局法大風子油即チヒドノカルブス、アンテル、ミンチカノ種子ヲ壓搾シタル油劑ヲ〇五乃至五瓦ヲ臂筋肉若クハ上膊及ヒ大腿ノ外側皮下ニ注射ス、勿論

注射スル前藥劑及注射器ハ熱氣消毒ヲナスヲ肝要トス。近年油劑消毒ノ爲メニ〇二%ヂハロミンヲ加ヘテ加熱消毒ニ代ヘタルモ吸收佳良ニシテ化膿殆ンドナシ、大風子油注射ハ通常一週三回シテ皮下注射ノ場所ハ其ノ都度毎ニ變更セシメ一年中ニハ百回ノ多數ヲ注射シテ數年ニ及フ、此注射ト同時ニ癩菌ハ皮膚粘膜ヨリ次第ニ破壊消滅スルヲ顯微鏡下ニ證明シ得ヘク即チ皮膚ノ切片ニ就キ檢鏡スルニ始メ無數ノ癩菌ヲ宿シタル癩細胞ハ癩菌ノ代リニ其ノ消滅ノ場所ニ脂肪樣體ノ顆粒ヲ含有スル一種ノ空胞細胞トナリテ殘遺ス。然レトモ此ノ機轉ノ全身ノ各組織ニ一齊ニ起ルカハ疑問ニシテ深部ニ變化セサル癩菌ノ潜伏スルコトアリテ數年ノ後チ繁殖シ來リ大風子油注射ヲ行ヒ居ルニモ拘ラス再ヒ暴威ヲ逞ウスルコト往々ニシテ有リ得ルナリ、再發、再發性結節ハ大風子油注射ニヨリテモ容易ニ吸收セサルモノナルカ近來沃度加大風子油(エチールエステル)〇二乃至〇三ノ結節内注射ヲ試ミツ、アルニ數回ニシテ吸收スルモノアリ、用ユヘキノ方法ナリトス、又近來金製劑殊ニ「金オルガゾール」(硫黃劑)ノ注射ヲ有効ナリト説クモノアリ、目下實驗ヲ重ネツ、アリ、尙ホ本年ハ癩豫防協會ヨリ供給ノ大風子油ヲ使用セルカ効果ハ從來ノモノト大差ナシ。其ノ他創傷ノ手當及併發症ニ對スル手當ハ普通ノ病院ニ於テ行フモノト大差ナキヲ以テ之ヲ省略ス。

第六 患者ノ狀態

一、入室狀況

重病室ニ收容セラレタル患者百九拾餘名ヲ除クノ外八百五十餘名ハ三十六舎ノ患者住宅ニ分住



キ從事セシム。

六、入院ノ際ノ携帶私物衣類ハ消毒ノ上糞澤ニ涉ラサル限リ其ノ儘使用セシム。

口、食 物

主食物

- 一、粥 食 一人一食白米一〇〇瓦約七勺宛ノ割合ニテ支給ス。
- 二、普通食 (半搗米七分患者 作者) (押 麥三分同)
- 一人一日ノ平均分量約四六八瓦約四合
- 但四大節其他特別御馳走ノ日ニハ一食分若クハ二、三食分ヲ白米飯ニ正月三ヶ日ハ一食分餅ヲ給ス。

三、精米精麥作業 十馬力電動機ニ依ル精米機、押麥製造機械ニテ患者ニ作業セシム、玄米大麥ハ各府縣ニ於テ生産移出検査シタル而モ品質等級及ヒ數量ノ明瞭ナルモノヲ購入シ居レリ。

從ツテ製品ノ購買ヨリ經費ノ節約ヲ爲スコトヲ得。

副食物

- 一、概 況 野菜類ヲ主トシ魚類、豆腐類、肉類及ヒ漬物類之ニ次キ其ノ他雜品ニシテ朝ハ毎日味噌汁ヲ與フ。
- 二、病室患者ノ副食物 大體普通食ト同一ナルカ普通食ノ鹽魚ナル時ハ鮮魚若クハ鶏肉ヲ給シ澤庵、菜漬類ナル時ハ金山寺味噌、梅干ナトヲ給ス、猶重病者ニハ滋養品トシテ牛乳、鶏卵、葛粉ナトヲ給ス。其ノ人數ハ毎日平均百九十人位ナリ。

大小計計表

三、御馳走 祝祭日、五節句、本院記念日、宗教上ノ諸儀式日其ノ他特殊ノ催シアル日ニハ院内飼育ノ豚鶏ヲ調理シテ與ヘ、又鰻、刺身、壽司、丹杜餅、赤飯其ノ他ヲ給與ス。尙間食トシテ汁粉、草餅、甘酒、果物、菓子等ヲ給スルコトアリ。

四、院内生産品 精米、押麥、豆腐製造ノ外患者ノ手ニ依ル院内生産ニ野菜類、豚、牛乳、鶏及ヒ鶏卵等アリ。之等ノ生産品ハ患者慰安會ノ手ヲ經テ病院之ヲ買入レテ患者ニ支給ス。

本年中患者ノ手ニ依ル生産品ヲ供給シタル額ヲ表ニ示セハ

品 目	數 量	價 格	品 目	數 量	價 格
野 菜	111,100.00 円	3,466.95 円	豚 鶏	1,131.00 斤	1,423.11 円
牛 乳	11,100.00 斤	1,423.10 円	計	113,700.00 斤	4,889.96 円
野 雞	1,100.00 羽	10,680.00 円	卵	110,000.00 個	110,000.00 円

五、魚類ノ一部ヲ安房鴨川ヨリ直接購入シ野菜類ヲ附近生産者ヨリ大麥ヲ埼玉縣ヨリ購入ス、食糧品購入ニ對シテハ榮養價、品質、價格等ノ研究ヲ怠ラス最良ノ方法ヲ講シ居レリ。

調 理

主、副食物ノ調理配給ハ共ニ職員ノ炊夫之ニ當ル而シテ患者飼育ノ豚若クハ多量ノ鶏ヲ屠ル時其他特ニ手數ヲ要スル献立ノ際ハ別ニ設ケタル患者炊事場ニテ一部若クハ全部ノ調理ニ患者之ニ當レリ。

食 費

年 報

昭和九年度ノ食費豫算ハ定員壹千人一人一日當拾九錢五厘ナルモ本年ノ延人員ハ三九一、九〇一人ニシテ一日平均一〇七三人強ニシテ豫算ヲ此ノ實數ニ割當ツレハ一人一日一八二錢トナル如斯定員ヨリ一日平均七三人宛ヲ超過收容シテ居ル。然ルニ物價ハ日々騰貴スル一方ニテ本年末ニ近ツクニ從ヒ豫算ニ不足ヲ生セントスル情勢ナルニ依リ凡ユル犠牲ヲ拂ヒ苦心ニ苦心ヲ重ネツ、アリ。

一般社會ニ存ル人々ハ自由ノ天地ニ生活シ種々ノ快樂慰安ヲ享ケ得ラル、モ社會ト全然隔離シ此小天地ヲ永久ノ住家トセサルヘカラサル患者ニ取リテハ食物ハ唯一ノ慰安ナルヘキコトヲ思フノ時此ノ貴重ナル豫算ヲ一層有意義ニ運用スヘキモノトス。

今昭和九年ノ實費ヲ表ニ示セハ

主 副 滋 燃 合	食 食 養 料	物 物 品 品	昭和九年		一人一日當平均	
			數量	金額	數量	金額
			一九二、四九二	三、五三三、七七	四、六六	七、六四
				三、九六二、九五八		七、二七
				二、七二七、五八		六、六五
				四、三三〇、二六		一〇、〇五
合 計			六八、二四一、一九			一、六五三

給食延人員四一、七二一人(癩豫防協會及外島委託患者ヲ含ム)

三、慰安及娛樂

由來癩ハ慢性難治ノ疾病トセラル、ガ故ニ患者ハ稍々モスレハ精神ノ動搖悲觀ニ陥リ易ク自然

ニ信仰ヲ欲求シテ各宗教ニ歸依スルモノ多シ而シテ本院ニ於テハ各患者ノ信仰ノ自由ヲ認メ各宗教教師ハ院内禮拜堂ニ於テ特定ノ日ニ布教慰問セラル今患者ヲ各宗教別ニスレハ佛教徒ニ屬スルモノ八三六名、内真宗三八〇名、日蓮宗二七七名、真言宗一七九名、基督教ニ屬スルモノ一九六名、何レノ宗教ニモ屬セサルモノ一八名ナリ、而シテ真宗ハ大谷派本願寺ヨリ日蓮宗ハ同宗務院ヨリ真言宗ハ高野山金剛峯寺ヨリ毎月教講師ヲ派遣シ基督教ハ好善社ヨリ毎月二回、日本M.T.Lヨリハ毎月一回宣教師及牧師ヲ定期派遣サル。各教團ハ教典ノ研究暗誦ニ熱心ナルノミナラス其ノ派ノ屬スル重病者、極貧者ヲ慰安看護シ同病相憐ノ實ヲ舉ケツ、アリ而シテ祝祭日、宗祖ノ記念日ハ全職員患者舉ツテ一堂ニ會シ和氣霽々タル中ニ之ヲ祝フノ風アルハ本院ノ誇トスル所ナリ。

宗教家ノ外社會教育家、社會事業家、其ノ他多數ノ名士各種藝術ニ堪能ナル諸氏ノ慰問、近年益々多キヲ加ヘツ、アルコトハ患者慰安上頗ル悦ブヘキコトナリトス其ノ他患者ノ春秋ニ催ス芝居、將棋、テニス、野球、ビンボン、其他運動競技、餅搗花祭、盆踊、クリスマス、會式、詩歌、俳諧等ノ諸會ハ單調無味ナル生活ニ多大ノ慰安ヲ與ヘラル。其ノ他浪花節、講談、芝居、映畫等ヲ開催シ蓄音機、ラヂオ等ノ設備アリ。之等ノ慰安、娛樂ノ事業ハ大部分管理知事ヲ會長トスル第一區府縣立全生病院患者慰安會ノ出資補助ニヨルコトハ本院當事者ノ常ニ感謝スル所ナリ。更ニ又患者ニシテ病重リ失明或ハ手足痲痺脱落シテ自己ノ起居サヘ不自由ナルモノ又ハ合併症ノ爲メ久シク病床ニ呻吟スルモノハ多クハ何レヨリモ小遣ヲ受クル途アラサルヲ以テ之等不幸ナル人々ヲ慰安救濟センカ爲ニ昭和六年四月財團法人全生互惠會ヲ組織ス本互惠會ハ畏クモ昭和五年十一月十日 皇太后陛下ノ御仁慈ニ依ル御下賜金ヲ基礎トシテ設立サレシモノニシテ購買部、農産部、印刷部、工藝部、裁縫部、牧畜部等ヲ經營

シコノ利益ヲ前記ノ目的ニ充ツ。之ニ依ツテ重病者ノ慰籍セララル、コト實ニ大ナリ、コレ偏ニ陛下ノ御仁德ノ賜ニシテ誠ニ有難キ極ミナリトス。

又最近財團法人瀬豫防協會ヨリラヂオ、オルガン、其ノ他運動音樂、演藝等ニ關スル器具ヲ寄附セラレタルコトハ誠ニ感謝ニ堪エサル所ナリ。

四、風紀

開院當時ニ在リテハ大部分浮浪患者ナリシヲ以テ風紀上遺憾ノ點少カラサリシカ漸次院内生活ニ親ミ來レルト同時ニ患者收容力ノ増大スルニ從ヒ聯合府縣各地方ノ自宅ヨリ入院スルモノ次第ニ増加シ風紀ハ遂次改善セラレ逃走ノ第一原因ト見做サル、賭博ノ如キモ大正八年以來全ク根絶シテ多年ノ陋習ハ一掃セラレ眞ニ平和ナル一大家族ヲ建設スルニ至レリト言フモ過言ニアラサル状態トナレリ。

五、教育

開院以來患者中無教育者多カリシヲ以テ患者中教育ニ經驗アルモノヲ選ヒ教師トナシ、普通教育ヲ施シ來リシカ近年兒童ノ入院數益々増加シ約八十名ヲ越ユルニ至リシヲ以テ此等年少者ニ對スル教育ニツキ深ク考慮シ數年前ヨリ職員中、教育ニ經驗アル者ヲシテ其ノ任ニ當ラシメ小學校ノ教科ニ準シテ教授シツ、アリシカ昭和六年度ニハ新ニ七十坪ノ教育舎ヲ建築シ且ツ其ノ設備モ稍々充實セシメ全生學園ト稱シ町村立小學校ト殆ント大差ナキ教育ヲ施シ得ルニ至レリ、而シテ學園小學部卒業者ニシテ更ニ勉學ノ志アルモノ、又ハ年少時發病シ勉學ノ機會ヲ失ヒタル中年患者ノ爲補習科ヲ設置シ以テ知識ノ向上人格ノ陶冶ニ努メツ、アリ。嘗テハ一丁字ナカリシ者モ次第ニ上達

シテ郷里ノ父母兄弟ト音信ヲ通スルニ至リ、又和歌俳句ヲ理解創作シ各種ノ新聞雜誌等ニ投稿シ入選スルモノ尠ナカラス、院内圖書室ハ本院見學ノ學生諸氏及特志家ノ寄附ニ依リテ漸次充實シ圖書ノ閱讀及ヒ稗史小説ノ貸出シニ依リ多數ノ盲目患者ハ團欒シテ小説ノ朗讀ヲ聞クコトヲ樂ミノ一ニナシ居レリ。又互惠會印刷部ヨリハ山櫻芽生呼小鳥武藏野短歌等ノ月刊雜誌或ハ「パンフレット」ヲ發行シテ各患者ノ詩歌、文章ヲ掲載シ院内患者ノ慰安ニ供シ他外部ニ對シテハ院内平和ノ生活ヲ記述シテ社會ノ理解ト同情ヲ得ルニ努メ以テ瀬ノ豫防宣傳ニ資セリ。

患者教育程度 (次表ハ入院當時ノ調査ニ依ルモノ)

教育別	計		教育別		計	
	男	女	男	女	男	女
無教育ノモノ	一五四	八三	一三七	一五	一五	一五
尋常小學程度	一九三	八八	二八一	六	六	一
同 卒業程度	二二〇	九〇	三三〇	三	三	一
高等小學程度	八〇	六	八九	二五	二五	一
同 卒業程度	一三三	二〇	一五二	七四	七四	一
計					七四	一〇七
計					一〇七	一〇七

備考 不明男二名アリ

六、作業

患者ハ一般手足及顔面ニ潰瘍ヲ有スルモノ多ケレトモ重症有熱ノモノヲ除キ比較的健康ナルモノ、終日ノ閑居無聊ハ却テ病症ノ經過ヲ惡化スルノ虞アリ、之カ弊害ヲ除カン爲任意適當ナル作業ニ從事セシム。就中農業ハ以上ノ目的ニ最モ適合スルノミナラス身體ノ健康ヲ増進セシメ一面蔬

榮ノ成育ヲ樂マシメ其收穫品ハ病院ニ於テ買上ケ食膳ニ供スルモノナルヲ以テ病院ニ取リテハ大ナル經濟トナリ彼等ニ向テハ大ナル慰安トナル其他各種ノ作業ニ従事スル者ニハ慰勞金ヲ給與シ之ヲ獎勵シツ、アリ。

左ニ作業種別及慰勞賃ヲ掲ケン

作業種別	慰勞金額	作業種別	慰勞金額	作業種別	慰勞金額
舎事	月一圓五十錢	汚物燒却	日五錢	物品交付所雜役	五錢
學世	月一圓三十錢	構内紙屑拾	三錢	洗濯	十錢
保姆	月二圓	浴場付雜役	三錢乃至四錢	大工	八錢乃至二十錢
醫藥劑係雜役	日三錢乃至七錢	裁縫	三錢乃至十七錢	土工	五錢乃至十錢
理髮	八錢	左官	八錢乃至二十錢	足袋裁縫	一付一錢乃至三錢
構内掃除	三錢	鐵細工	七錢乃至十錢	圍裁	日四錢
病室付雜役	八錢乃至十二錢	精麥押	一俵二付五錢	下水土管掃除	八錢乃至十錢
患者輸送	三錢乃至四錢	漬物漬込	十二錢五厘	火種配給	六錢
細帶交換所雜役	八錢乃至十二錢	被服整理	日八錢		三錢
再製細帶卷軸及ガ、セ修理	一貫二付十八錢乃至二十錢	試驗動物飼育	三錢乃至十錢		
糞尿吸取	便所一ヶ所二付一二錢		三錢乃至四錢		

第七統計

年報

五三







發病年齡時	性體	斑紋癩	神經癩	結節癩	型計
三十歲	計女男				
二十九歲	計女男				
二十八歲	計女男				
二十七歲	計女男				
二十六歲	計女男				
二十五歲	計女男				
二十四歲	計女男				
二十三歲	計女男				
二十二歲	計女男				
二十一歲	計女男				
計					五 四 一 六 二 四 六 二 四 六 二 四 八 三 五 〇 三 七 三 一 二 一 四 一 三 一 四 二 二 二 五 六
六十歲	計女男				
五十九歲	計女男				
五十八歲	計女男				
五十七歲	計女男				
五十六歲	計女男				
五十五歲	計女男				
五十四歲	計女男				
五十三歲	計女男				
五十二歲	計女男				
五十一歲	計女男				
計					五 四 一 六 二 四 六 二 四 六 二 四 八 三 五 〇 三 七 三 一 二 一 四 一 三 一 四 二 二 二 五 六

發病年齡時	性體	斑紋癩	神經癩	結節癩	型計
三十歲	計女男				
二十九歲	計女男				
二十八歲	計女男				
二十七歲	計女男				
二十六歲	計女男				
二十五歲	計女男				
二十四歲	計女男				
二十三歲	計女男				
二十二歲	計女男				
計					二 七 七 二 九 二 二 四 三 二 三 六 六 二 六 五 三 四 三 三 七 〇 二 七 三 六 二 五 四 五 三 二
四十歲	計女男				
三十九歲	計女男				
三十八歲	計女男				
三十七歲	計女男				
三十六歲	計女男				
三十五歲	計女男				
三十四歲	計女男				
三十三歲	計女男				
三十二歲	計女男				
計					二 七 七 二 九 二 二 四 三 二 三 六 六 二 六 五 三 四 三 三 七 〇 二 七 三 六 二 五 四 五 三 二



死因病類別	敗血症				丹毒				腦膜炎				氣管枝加答兒			
	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男	
五歲迄																
五以上六歲以下																
五以上十歲																
十以上十六歲																
十六歲以上																
二十以上三十歲																
三十以上四十歲																
四十以上五十歲																
五十以上六十歲																
六十以上七十歲																
七十以上																
合計																

七、死亡患者病名年齡別表

(昭和九年申)

來以院開	斑紋癩				神經癩				結節癩				合計			
	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男	
五歲迄																
五以上十歲																
十以上十六歲																
十六歲以上																
二十以上三十歲																
三十以上四十歲																
四十以上五十歲																
五十以上六十歲																
六十以上七十歲																
七十以上																
合計																

病型	昭				和				九				中年			
	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男	
五歲迄																
五以上十歲																
十以上十六歲																
十六歲以上																
二十以上三十歲																
三十以上四十歲																
四十以上五十歲																
五十以上六十歲																
六十以上七十歲																
七十以上																
合計																

備考 本表ノ外中非癩患者男一名ヲアリ  
六、死亡患者病型年齡別表

(昭和九年末現在)

病型	神				結				合			
	計	女	男	計	女	男	計	女	男	計	女	男
五歲迄												
五以上十歲												
十以上十六歲												
十六歲以上												
二十以上三十歲												
三十以上四十歲												
四十以上五十歲												
五十以上六十歲												
六十以上七十歲												
七十以上												
合計												





職業	計		職業	計		職業	計	
	男	女		男	女		男	女
砂利外交員	1	-	酒商小僧	-	-	電線製造職工	-	-
味噌油醸造業	-	-	質屋小僧	-	-	燐寸製造職工	-	-
醬油醸造所備	-	-	吳服店小僧	-	-	木綿職工	-	-
義足販賣店備	-	-	機屋小僧	-	-	紡績女工	5	5
肉類販賣店備	-	-	鶏卵問屋小僧	-	-	生糸女工	8	8
雜貨店備	-	-	茶屋小僧	-	-	機織女工	7	7
印刷所備	-	-	瀬戸物職工	-	-	電材所人	3	3
水車業備	-	-	砂糖製造職工	-	-	製材所人	3	3
運送店備	3	-	肥料工場職工	-	-	辨當配達夫	2	2
酒屋番頭	-	-	織物工場職工	-	-	菓子配達夫	2	2
材木商店員	-	-	製材職工	-	-	郵便配達夫	2	2
酒屋店員	-	-	防水布職工	-	-	新聞配達夫	2	2
油商備	-	-	火夫	3	-	電氣鍍金磨工	1	1
雜穀商店員	-	-	水使	4	-	日雇傭(自山者勞)	1	1
製糸工場備	-	-	小頭	4	-	無職中	1	1
酒造職人	3	-	船頭	5	-	合計	100	100
醫療器械商小僧	-	-	發動船運轉手見習	-	-			
仕立屋小僧	-	-	イソク製造職工	-	-			

備考 非癩患者男一名ヲ除ク

一〇、現在患者前科者調

(昭和九年十二月末日現在)

賭博犯	計		窃盜犯	計		詐欺犯	計		其ノ他	計	
	一犯	二犯以上		一犯	二犯以上		一犯	二犯以上		一犯	二犯以上
一犯	3	-	一犯	4	-	一犯	1	-	一犯	6	-
二犯	-	-	二犯	3	-	二犯	1	-	二犯	1	-
三犯	-	-	三犯	1	-	三犯	-	-	三犯	-	-
四犯以上	-	-	四犯以上	-	-	四犯以上	-	-	四犯以上	-	-
計	3	-	計	8	-	計	2	-	計	7	-

### 第八 財團法人癩豫防協會相談所狀況

昭和七八年度ニ於テ完成シタル建物ハ總テ六棟ヤマトスレート葺木造平家建(一〇三坪四四四ニシテ其ノ相談取扱數ヲ示セハ

豫防協會相談所扱患者數

(昭和九年中)

體性種別	計		昭和八年末現在		昭和九年中收容		同退所		同年末現在	
	男	女	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料
計	14	10	11	11	11	11	11	11	11	11

退所及事由數

體性種別	計		輕快		都合(病院)		處分		逃走		死亡		計
	男	女	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	有料	無料	
計	15	6	13	2	13	2	1	1	1	1	3	1	27

統計

九





第一區府縣立全生病院患者慰安會規則

# 第一區府縣立全生病院患者慰安會規則

(大正三年十一月七日創立)

## 主 旨 書

癩病ハ古來遺傳病トシテ久シク顧ミラレサリシカ近來ニ至リ該病ハ彼ノ結核梅毒ト等シク危險ナル慢性ノ傳染性疾患ニシテ其醜惡ナル病竈ヨリ放散スル病毒ノ多大ナルコト普ク認承セラレ、ニ至リ明治四十年政府ハ癩豫防法トシテ法律第十一號ヲ發布シ先ツ赤貧ニシテ自ラ療養スル能ハサル患者ヲ隔離收容スルノ目的ヲ以テ全國五ヶ所ノ療養所ヲ設立スルニ至レリ第一區府縣立全生病院ハ實ニ其一ニシテ所澤ヲ東ニ距ルコト里許東京府下北多摩郡東村山村ニ在リ目下東京、神奈川、新潟、埼玉、群馬、千葉、茨城、栃木、愛知、靜岡、山梨、長野ノ一府十一縣ヨリ送致セラレタル患者四百人ヲ容ル是等ノ患者ハ幸ニ官給ノ衣食住ニヨリテ何ノ不自由ナク加之出來得ル丈ノ治療ヲモ施サレ居リ患者ニ取リテハ一見此上ナキ樂天地ナルカ如キモ如何セン彼等ノ病ハ已ニ膏盲ニ入り現今ノ文明醫術ヲ以テシテモ未タ全治セシムルノ域ニ達セス從テ彼等ハ將來ニ於テ退院ノ希望ヲ發見スル能ハス空シク此狹隘ナル小天地ニ於テ無味單調ナル生涯ヲ終ハラサルヘカラス實ニ憫然ノ至リナラスヤ蓋シ國家カ癩病撲滅ノ爲メ犠牲トシテ彼等ノ自由ヲ拘束スル以上ハ彼等ノ慰安ニ努ムルハ勿論ニシテ全生病院ニ於テモ其設備ハ略ホ備ハレリト雖モ經費ニ一定ノ制限アリ充分ニ慰安ノ目的ヲ達スル能ハサルハ深ク遺憾トスルモノ、如シ若シ夫レ大方ノ慈善家ニシテ溢ル、カ如キ同情ヲ彼等ニ注カンニハ彼等ノ心中ノ喜ヒヤ蓋シ測ルヘカラサルモノアラン然リ而シテ今回篤志家ノ贊助

ヲ得テ本會ヲ設立シ制限アル公費ノミニテハ充分ニナス能ハサリシ講話說教竝ニ演藝ノ開催作業ノ慰勞並獎勵娛樂品ノ設備物品ノ給與患者携帶兒ノ保護其他必要ト認ムル事業ニ對シ金品ヲ寄附シ以テ患者慰安ノ目的ヲ徹底セシメントス冀クハ大方ノ紳士淑女此不幸ナル患者ニ同情セラレ奮テ本會ノ會員トナリ應分ノ助力アラシムコトヲ望ム

大正三年十一月

### 第一區府縣立全生病院患者慰安會

#### 第一區府縣立全生病院患者慰安會規則

- 第一條 本會ハ第一區府縣立全生病院患者慰安會ト稱ス
- 第二條 本會ハ第一區府縣立全生病院收容患者ヲ慰藉スルヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ノ事務所ヲ東京府北多摩郡東村山村第一區府縣立全生病院内ニ置ク
- 第四條 本會ハ患者慰安ノ方法トシテ左ノ事業ヲ爲ス
  - 一 講話說教並演藝等ノ開催
  - 二 作業ノ慰勞
  - 三 娛樂品ノ設備
  - 四 患者携帶兒ノ保護
  - 五 患者慰安ノ爲必要ナル物品ノ給與

六 其ノ他必要ト認ムル事業

第五條 本會々員ハ名望家慈善家ヲ以テ組織シ左ノ四種ニ分ツ

一 名譽會員 本會ノ事業ニ特殊ノ功勞アル者

二 特別會員 一時ニ金拾圓以上寄附ノ者

三 正會員 毎年金壹圓以上五ヶ年間寄附ノ者又ハ一時ニ金叁圓以上寄附ノ者

四 贊助員 多少ニ拘ラス金品寄附ノ者

第六條 本會ニ左ノ役員ヲ置キ總テ無報酬トス但シ書記ニハ報酬ヲ與フルコトヲ得

會長 一名 副會長 一名 顧問 若干名

評議員 若干名 幹事 若干名 書記 若干名

第七條 會長ニハ東京府知事ヲ推ス

副會長ニハ東京府學務部長ヲ推ス

顧問ニハ第一區域聯合府縣地方長官ヲ推ス

評議員ハ第一區域聯合府縣並其ノ他必要ト認ムル處ニ置キ會長之ヲ囑託ス

幹事ハ會長之ヲ指名ス

書記ハ常務幹事之ヲ任免ス

第八條 會長ハ會務ヲ總理シ本會ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其ノ事務ヲ代理ス

顧問ハ本會ノ經營ニ關シ意見アルトキハ會長ニ提出スルモノトス

評議員ハ會長ノ諮問ニ應シ本會ノ重要事項ヲ議決ス

幹事ハ會長ノ命ヲ受ケ會務ヲ處理ス

會長ハ幹事中ヨリ常務幹事壹名ヲ指名シ幹事ヲ代表シテ會務ヲ處理セシム

書記ハ上司ノ命ヲ受ケ庶務會計ニ從事ス

第九條 本會ニ委員若干名ヲ置キ會長之ヲ囑託シ會務擴張ノ事ヲ掌ラシム

第十條 本會ハ毎年一回評議員會ヲ開ク但シ會長ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第十一條 本會ハ毎年一回幹事會ヲ開ク但シ必要アルトキハ臨時會ヲ開クコトヲ得

第十二條 評議員會及幹事會ハ會長之ヲ召集ス

第十三條 幹事會ニ於テハ左ノ事項ヲ議決ス

一 本會毎年ノ歳入出豫算

二 本會諸規則ノ改正

三 其ノ他必要ト認ムル件

第十四條 評議員會又ハ幹事會ノ議長ハ會長之ニ當リ議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス總テ決議ハ出席者多數ノ意見ヲ以テ之ヲ決ス

第十五條 本會經費ハ寄附金及其ノ利殖金ヲ以テ之ニ充ツ

第十六條 本會ノ會計年度ハ四月ヨリ起リ翌年三月ニ終ルモノトス

常務幹事ハ毎年度會計收支決算書ヲ作り會長ノ決裁ヲ經テ評議員會ニ提出スヘシ

第十七條 會員ハ何時ニテモ會計帳簿ヲ閲覽シ且本會ノ事業其ノ他ニ付テ意見ヲ述フルコトヲ得

第十八條 金員並物品ノ寄附ヲ受ケタルトキハ謝狀ヲ送り氏名及目錄ヲ簿冊ニ登載シテ永久ニ保存ス

第十九條 物品現金並有價證券ハ常務幹事之ヲ保管ス但シ現金並有價證券ハ郵便局又ハ確實ナル

銀行ニ預金スルコトヲ得

第二十條 本會經費ニシテ殘餘ヲ生シタル場合ハ本會基本金ニ編入ス

第二十一條 本院ノ廢止又ハ都合ニ依リ本會ヲ解散スルトキハ評議員會ノ決議ニ依リ現在ノ金品ヲ

他ノ慈善事業ニ寄附ス

# ●財團法人全生互惠會

(昭和六年二月十一日創立)

## 一、事業要項

### 第一項 相互扶助作業ノ獎勵及援助

本院ハ開院當初ヨリ一大家族主義ニ立脚シ相互扶助精神ノ涵養ニ努メシ結果現在千五十餘名ノ患者ハ恰モ一家族ノ如ク身ハ悲惨極リナキ病魔ト闘ヒツ、家族ノ一員トシテ重症者ノ看護ニ或ハ公益事業ニ或ハ精神修養ニ關スル種々ナル事業ニ從事セリ、然レトモ病重キニ至レハ多年功績顯著ナリシモノト雖モ之レヲ顧ミル者ナク空シク病床ニ悶々トシテ生ヲ終ルヲ常トス、本會ハ斯クノ如キ功勞者ニ對シ社會ニアル恩給制度ニ準ス可キモノヲ設ケ聊カナカラ其ノ功績ヲ推賞シ以テ將來此ノ種ノ事業ニ從事スルモノヲ獎勵援助シ他面相互扶助精神ノ向上ニ努メ以テ 皇太后陛下ノ優渥ナル恩召ニ副ヒ奉リ兼ネテ本院ヲシテ理想的療養所タラシメンコトヲ期スルナリ。

### 第二項 重症患者ノ慰安及救濟

本院ニ現在收容セル患者千五十餘名中大部分ハ生家貧困ニシテ彼等ノ必要トスル金品ノ送付ヲ受クル能ハサルナリ。然レトモ未タ病輕症ナルモノハ院内諸作業ニ從事シ日々三錢乃至六錢ノ慰勞金ヲ受クルモ重症ニシテ收容當時ヨリ病室ニ吟呻シ作業ニ從事シ能ハサルモノ或ハ從來作業ニ從事セシモ一度重症トナリ長ク病床ニ臥シテ再ヒ立ツ能ハサルモノ或ハ失明シテ咫尺ヲ辨セサルモノ或ハ手足麻痺脱落シテ自己ノ起臥スラ自由ナラサルモノ、或ハ肺結核、心臟病、腎臟病等ノ如キ合併

症ノ増悪シタルモノ或ハ癩性熱衰弱ノ甚シキモノ等カ長ク病床ニ看護ヲ受ケ囊中一錢ノ貯ヘナキニ至リタルニ於テハ其ノ心細サト周圍ノ稍富メルモノヨリ受クル刺戟ニ依ル痛苦トハ到底想像スル能ハサルナリ。而シテ之等重症患者四百名中差當リ救濟ヲ要スルモノ約二百五十名ニ達ス之等要救患者ニ毎月若干ノ小使ヲ支給シテ物質的慰安ヲ與ヘ引イテハ之ヲ精神慰安ニ及ホシ將來全患者ノ大部分カ陷ル可キ失明重症ノ運命ニ對スル煩悶焦躁憂慮ノ念ヲ去リ安心立命ノ境地ニ達セシメントスルモノナリ。

### 第三項 農業其ノ他産業ノ經營及獎勵

耕作及牧畜ハ患者ニ對シ唯一ノ持久的慰安作業ニシテ此レニ依リテ新鮮ナル野菜及肉類、鶏卵、牛乳等ヲ院内全般ニ供給シ、又其ノ他ノ手工製作品ハ目下院内自給ヲ主眼トスルモ將來若シ生産多量ニシテ消毒可能ナル場合ニ至レハ院外ニモ供給スルニ至ラシメントスルモノナリ。

### 第四項 賣店ノ經營

本院ノ賣店ハ所謂消費組合ニ類似スル組織ナリ。即チ過去十數年間公費ノ及ハサル患者日用雜貨ハ小賣商人ノ手ヲ經テ購入セシモ中間商人ヲ利スルノミニシテ患者ハ高價ニシテ疎惡ナル物品ヲ入手シ且ツ商人ハ永續セス種々ノ不便尠カラス故ニ昭和三年五月患者共有金若干ヲ資本トシ賣店ヲ開キ商品ヲ大量ニ購入セシメ會長監督ノ下ニ患者ヲシテ販賣ノ任ニ當ラシメシナリ。然ルニ近來一ヶ月千八百圓以上ノ賣上ケアリテ純益約一割ヲ上クルコトハ容易ナリ。此ニ本會ハ此ノ賣店ノ權利義務ヲ繼承シ以テ全患者ヲ利セントスルモノナリ。

第五項 印刷出版及學藝ノ獎勵

本會ハ山櫻芽生等數種ノ月刊雜誌及「パンフレット」ヲ發行シ以テ院内患者ノ文藝ニ依ル慰安並ニ精神の向上ヲ計リ外部ニ對シテハ院内ノ平和ナル生活ヲ記述シ社會ノ同情ト理解ヲ得ルニ努メ以テ癩ノ豫防宣傳ニ資スル所有ラントス。

第六項 其ノ他理事會ノ決議ニ依リ必要ト認メタル事項  
上述セル第一乃至第五項以外ニ理事會ノ決議ニ基ツキ必要ト認メタル事業ヲ行ヒ以テ院内ニ於テハ本會所期ノ同病相憐相互扶助ノ實ヲ擧ケ院外ニ於テハ癩豫防運動ノ一助トナリ本病カ一日モ早クコノ光輝アル日本ノ國土ヨリ絶滅センコトヲ期スルモノナリ。 以上

二、寄附行爲

第一章 名 稱

第一條 本會ハ財團法人全生互惠會ト稱ス

第二章 目的及事業

第二條 本會ハ 皇太后陛下御仁慈ノ思召ヲ體シ第一區府縣立全生病院收容患者相互扶助ノ實ヲ擧クルヲ以テ目的トス  
第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達スルタメ左ノ事業ヲ行フ  
一 相互扶助作業ノ獎勵及援助  
二 重症患者ノ慰安及救濟

三 農業其他産業ノ經營及獎勵

四 賣店ノ經營

五 印刷出版及學藝ノ獎勵

第六 其ノ他理事會ノ決議ニヨリ必要ト認メタル事項

第三章 事務所

第四條 本會ハ事務所ヲ第一區府縣立全生病院内ニ置ク

第四章 資産會計及贊助員

第五條 本會ノ資産ハ 皇太后陛下御下賜金諸般ノ寄附金及全生病院收容患者ノ設立シタル農會試作部全生賣店山櫻俱樂部互惠部ヨリ寄附セラレタル別紙目錄ニ掲クルモノトス (別紙略ス)

第六條 本會ハ理事會ノ議決ヲ經テ基金ヲ設クルコトヲ得

基金ハ理事五分ノ三以上ノ同意ヲ得會長ノ承認ヲ得ルニアラサレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第七條 本會ハ理事會ノ議決ニヨリ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第八條 本會ノ資産中現金ハ郵便官署其ノ他確實ナル銀行又ハ信託會社ニ預入レ若クハ國債證券又ハ確實ナル有價證券ヲ買入レ利殖ヲ圖ルモノトス

但シ特別ノ事情アル場合ニハ理事會ノ議決ニヨリ不動産ヲ購入スルコトヲ得

第九條 本會ノ經費ハ資産ヨリ生スル收入及其ノ他ノ收入ヲ以テ支辨ス

第十條 本會ノ事業翼賛ノタメ寄附セラレタル金品ハ之ヲ受領シ其ノ金員ハ之ヲ基金ニ編入ス但シ理事會ノ議決ニヨリ其ノ一部ヲ經費補充積立金ニ編入スルコトヲ得

寄附ノ目的ヲ指定シタルモノハ其ノ用途ニ充ツ立金ニ編入スルコトヲ得  
第十一條 毎會計年度ノ終ニ於テ剩餘金アルトキハ基金ニ編入ス  
但シ剩餘金ノ一部ニ限り翌年度ニ繰越スコトヲ得

第十二條 本會ノ豫算ハ毎年度理事會ノ議決ニヨリ之ヲ定メ決算ハ理事會ノ認定ヲ經ルモノトス

第十三條 本會ノ會計年度ハ毎年五月一日ニ始マリ翌年四月三十日ニ終ル

第十四條 本會ノ事業ヲ翼賛スルモノハ之ヲ賛助員ト稱ス

第五章 役員

第十五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一 會長 一名

二 副會長 二名

三 理事 若干名

四 監事 若干名

第十六條 會長ハ第一區府縣立全生病院院長ノ職ニアルモノトス

副會長ハ第一區府縣立全生病院職員中ヨリ會長之ヲ委嘱ス

第十七條 會長ハ會務ヲ總理シ本會ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ補佐ス會長事故アルトキハ豫メ指定シタル順序ニヨリ之ヲ代理ス  
會長副會長ハ理事トス

第十八條 理事ハ之ヲ分チテ二種トス

一 甲理事ハ第一區府縣立全生病院職員中ヨリ會長之ヲ選任ス

二 乙理事ハ第一區府縣立全生病院收容患者中ヨリ會長副會長合議ノ上之ヲ選任ス

第十九條 甲乙理事ノ人員ノ割合ハ會長ノ決スル所ニ依ル

但シ甲理事十八名乙理事十二名以内トス

第二十條 對外問題ノ生シタルトキ乙理事ハ一切ノ權限ヲ甲理事ニ委任スルコトヲ要ス

第二十一條 監事ハ第一區府縣立全生病院職員中ヨリ會長之ヲ委嘱ス

第二十二條 理事及監事ノ任期ハ一ケ年トス但シ再任ヲ妨ケス補缺者任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第二十三條 理事及監事任期滿了ノ場合ニ於テ其ノ後任者ノ就職スル迄ハ仍前任者ニ於テ其ノ職務ヲ行フモノトス

第二十四條 本會ニ事務員若干名ヲ置ク

第二十五條 理事監事及事務員ニシテ其ノ職務上不都合ノ所爲アリタルトキハ會長直ニ之ヲ免ス  
免職セラレタルモノハ再員スルコトヲ得ス

第六章 理事會

第二十六條 理事會ノ職務權限左ノ如シ

一 歳入歳出豫算ヲ定ムルコト

二 決算報告ヲ認定スルコト

三 不動産ノ購入又ハ處分ヲ議定スルコト

寄附行爲

四 寄附行為ヲ變更シ及處務細則ヲ設定スルコト  
五 其ノ他會長ニ於テ必要ト認メ理事會ニ附議シタル事項

第二十七條 理事會ハ會長之ヲ招集ス

理事會ノ議長ハ會長之ニ當ル

第二十八條 理事會ハ理事二分ノ一以上出席スルニアラサレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第二十九條 理事會ノ議決ハ出席者ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第七章 附 則

第三十條 本寄附行為ノ施行ニ關シ必要ナル細則ハ理事會ノ議決ヲ經テ別ニ之ヲ定ム

第三十一條 將來此ノ寄附行為ノ條項ヲ變更セントスルトキハ理事總數三分ノ二以上ノ同意ヲ經

テ且主務官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第三十二條 第十八條ニヨリ選任セラレタル理事就任スルニ至ル迄ノ間ハ設立者ヲ以テ理事トス

第三十三條 農會試作部全生賣店山櫻俱樂部及互惠部ノ有スル權利義務ハ法人許可ノ日ヨリ本法

人ニ於テ之ヲ繼承スルモノトス

以上

關係法令



# 關係法令

## ●癩豫防法 (明治四十年三月十九日)

改正 (大正五年三月十日 昭和四年三月二十七日  
法律 第二十一號 法律 第十號  
昭和六年四月一日  
法律 第五十八號)

- 第一條 醫師癩患者ヲ診斷シタルトキハ患者及家人ニ消毒其ノ他豫防法ヲ指示シ且三日以内ニ行政官廳ニ届出ツヘシ其ノ轉歸ノ場合及死體ヲ檢案シタルトキ亦同シ
- 第二條 癩患者アル家又ハ癩病毒ニ汚染シタル家ニ於テハ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ行フヘシ
- 第二條ノ二 行政官廳ハ癩豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ行フコトヲ得
- 一 癩患者ニ對シ業態上病毒傳播ノ虞アル職業ニ従事スルヲ禁止スルコト
  - 二 古着、古蒲團、古木、紙屑、襤褸、飲食物其ノ他ノ物件ニシテ病毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アルモノノ賣買若ハ授受ヲ制限シ若ハ禁止シ、其ノ物件ノ消毒若ハ廢棄ヲナサシメ又ハ其ノ物件ノ消毒若ハ廢棄ヲナスコト
- 第三條 行政官廳ハ癩豫防上必要ト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ癩患者ニシテ病毒傳播ノ虞アルモノヲ國立癩療養所又ハ

法令

第四條ノ規定ニ依リ設置スル療養所ニ入所セシムヘシ

必要ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ前項患者ノ同伴者又ハ同居者ニ對シテモ一時相當ノ救護ヲ爲スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ行政官廳ハ必要ト認ムルトキハ市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ癩患者及其ノ同伴者又ハ同居者ヲ一時救護セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ニ於テ一時救護ヲ爲ス場合ニ要スル費用ハ必要アルトキハ市町村又ハ之ニ準スヘキモノニ於テ繰替支辨スヘシ

第四條 主務大臣ハ二以上ノ道府縣ヲ指示シ其ノ道府縣内ニ於ケル前條ノ患者ヲ收容スル爲ニ必要ナル療養所ノ設置ヲ命スルコトヲ得

前項療養所ノ設置及管理ニ關シ必要ナル事項ハ主務大臣之ヲ定ム

第四條ノ二 國立癩療養所及前條ノ療養所ノ長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ入所患者ニ對シ必要ナル懲戒又ハ檢束ヲ加フルコトヲ得

第五條 私立ノ癩療養所ノ設置及管理ニ關シ必要ナル事項ハ主務大臣之ヲ定ム

第六條 北海道地方費又ハ府縣ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ第二條ノ二第一號ノ規定ニ依ル從業禁止又ハ第三條第一項ノ規定ニ依ル入所ニ因リ生活スルコト能ハサル者ニ對シ其ノ生活費ヲ補給ス

一

ヘシ

- 第七條 左ノ諸費ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス
  - 一 第二條ノ二第二號ノ規定ニ依リ行政官廳ニ於テ物件ノ消毒又ハ廢棄ヲ爲ス場合ニ要スル諸費
  - 二 入所患者（國立癩療養所入所患者ヲ除ク）及一時救護ニ關スル諸費
  - 三 檢診ニ關スル諸費
  - 四 其ノ他道府縣ニ於テ癩豫防上施設スル事項ニ關スル諸費
- 第七條ノ二 本法ニ依リ北海道地方費又ハ府縣ニ於テ負擔スヘキ費用ハ東京府伊豆七島及小笠原島ニ於テハ國庫ノ負擔トス
- 第八條 國庫ハ第六條及第七條ノ規定ニ依ル道府縣ノ支出ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助スルモノトス
- 第九條 行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ指定シタル醫師ヲシテ癩又ハ其ノ疑ヒアル患者ノ檢診ヲ行ハシムルコトヲ得癩ト診斷セラレタル者又ハ其ノ親族ハ行政官廳ノ指定シタル醫師ノ檢診ヲ求ムルコトヲ得
- 行政官廳ノ指定シタル醫師ノ診斷ニ不服アル患者又ハ其ノ親族ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ更ニ檢診ヲ求ムルコトヲ得
- 第十條 第一條ノ規定ニ違反シ又ハ第二條ノ二ノ規定ニ依リ行政官廳ノ處分ニ違反シタルモノハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

●癩豫防ニ關スル法律ニ依ル

●國庫補助ノ件 (明治四十年八月三日) (勅令第二百八十五號)

- 明治四十年法律第十一號ニ依リ道府縣ノ支出精算額ニ對シ國庫ハ同法第八條ニ依リ左ノ區別ニ從ヒ補助ス但シ事業ニ伴フ收入又ハ寄附金等アルトキハ之ヲ控除シタル額ニ對シ補助ス
  - 一 療養所創設費擴張費及之ニ伴フ初度調辨費 二分ノ一
  - 二 被救護者又ハ其ノ扶養義務者ヨリ辨償ヲ得サル無籍者又ハ本籍不明者ノ救護費 二分ノ一
  - 三 其ノ他ノ諸費 六分ノ一
  - 四 私立ノ代用療養所ノ創設費擴張費及之ニ伴フ初度調辨費ニ對スル補助費 二分ノ一
  - 五 私立ノ代用療養所ニ對スル其ノ他ノ補助費 六分ノ一

●癩豫防法施行規則 (明治四十年七月二十日) (內務省令第十九號)

- 改正 (明治四十三年六月 大正五年六月)
  - 內務省令第二十四號 昭和二年十二月廿二日
  - 內務省令第四十九號 昭和四年十一月
  - 內務省令第三十九號 昭和六年七月
  - 內務省令第十六號
- 第一條 癩豫防法第一條ノ届出ハ患者又ハ死體所在地ノ警察官署

法 令

二

- 第十條ノ二 第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス
- 第十一條 醫師若ハ醫師タリシモノ又ハ癩豫防事務ニ關係アル公務員若ハ公務員タリシ者故ナク業務上取扱ヒタル癩患者又ハ其ノ死者ニ關シ氏名、住所、本籍、血統關係又ハ病名其ノ他癩タルコトヲ推知シ得ヘキ事項ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十二條 行旅死亡人ノ取扱ヲ受クル者ヲ除クノ外療養所ニ入所中又ハ第三條第二項及第三項ノ規定ニ依ル一時救護中死亡シタル癩患者ノ死體又ハ遺留物件ノ取扱ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

●癩豫防ニ關スル法律施行ノ件

改正 (明治四十年十二月) (勅令第三百五十一號)

- 明治四十年法律第十一號ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 明治四十年法律第十一號中改正
  - 法律施行期日ノ件 (昭和六年七月十四日) (勅令第八十號)
- 昭和六年法律第五十八號ハ昭和六年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

ニ之ヲ爲スヘシ

- 第二條 癩患者ニシテ病毒傳播ノ虞アルモノアルトキハ警察官署ハ患者ノ所在、環境及病狀等ヲ具シ地方長官ニ報告スヘシ
- 地方長官ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタル場合癩豫防上必要ト認ムルトキハ所定ノ療養所ニ照會ヲ經タル上送致ノ手續ヲ爲スヘシ
- 警察官署ハ必要ト認ムルトキハ第一項ノ癩患者又ハ其ノ同伴者若ハ同居者ニ對シ一時相當ノ救護ヲ爲シ又ハ市町村長若ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ
- 第二條ノ二 療養所ノ長ハ病毒傳播ノ虞アル癩患者ニシテ直接入所ヲ申出テタルモノアルトキハ特ニ必要ト認ムル場合ニ限り前條ノ規定ニ拘ラス之ヲ直ニ收容スルコトヲ得
- 前項ノ規定ニ依リ收容シタル場合ニ於テ療養所ノ長ハ國立癩療養所ニ在リテハ內務大臣道府縣ノ療養所ニ在リテハ管理者タル地方長官ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス
- 第三條 第二條ニ依リ癩患者ヲ入ラシムヘキ療養所ハ患者所在地道府縣ノ療養所又ハ國立癩療養所トス但シ療養所管理者ノ協議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得
- 第四條 癩豫防法第四條ノ療養所ハ內務大臣ノ指定シタル地方長官ニ於テ之ヲ建設管理スヘシ
- 當該地方長官ハ內務大臣ノ認可ヲ得テ療養所ノ位置ヲ定ムヘシ
- 第五條 癩豫防法第六條ニ依リ生活費ヲ補助受クヘキ者ハ左ノ

三

各號ノ一ニ該當スルモノニ限ル

一 従業ヲ禁止セラレタル者

二 従業ヲ禁止セラレ又ハ入所セシメラレタル當時本人ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者

生活費ノ補給ハ生活ニ必要ナル限度ヲ超エルコトヲ得ス

生活費補給ノ程度、方法及期間ニ關スル事項ハ地方長官ニ於テ之ヲ定ム

第五條ノ二 療養所ノ長ハ入所患者ニ對シ左ノ懲戒又ハ檢束ヲ加フルコトヲ得

一 譴責

二 三十日以内ノ謹慎

三 七日以内常食量二分ノ一マテノ減食

四 三十日以内ノ監禁

前項第三號ノ處分ハ第二號又ハ第四號ノ處分ト併科スルコトヲ得

第一項第四號ノ監禁ニ付テハ情狀ニ依リ國立癲癩療養所ニ在リテハ内務大臣道府縣ノ療養所ニ在リテハ管理者タル地方長官ノ認可ヲ經テ其ノ期間ヲ二箇月マテ延長スルコトヲ得

第五條ノ三 前條ノ外懲戒又ハ檢束ニ關シ必要ナル細則ハ國立癲癩療養所ニ在リテハ内務大臣、道府縣ノ療養所ニ在リテハ管理者タル地方長官ノ認可ヲ經テ療養所ノ長之ヲ定ム

第六條 癲癩防法第九條第一項第二項行政官廳ノ職權ハ警察官署之ヲ行フ

警察官署ノ指定シタル醫師ノ診斷ニ不服アル患者又ハ其ノ親族ハ發病以來ノ症候、經過及反對意見ヲ有スル醫師ノ診斷書其ノ他不服ノ理由ヲ具シ書面ヲ以テ地方長官ニ對シ其ノ指定シタル醫師ノ檢診ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ檢診ノ場所及日時ヲ請求者ニ通知シ二人以上ノ醫師ヲ指定シテ檢診ヲ行ハシムヘシ此ノ場合ニ於テ請求者ハ其ノ費用ヲ以テ反對意見ヲ有スル醫師ヲ立會セシムルコトヲ得

檢診ノ爲病院其ノ他ノ場所ニ滞留ヲ命セラレタル患者其ノ命ヲ遵守セサルトキハ檢診ノ請求ヲ取消シタルモノト看做ス

第七條 檢診ノ請求ハ行政處分ノ執行ヲ停止セス但シ當該官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 行旅死亡人ノ取扱ヲ受クルモノヲ除クノ外療養所ニ入所中又ハ癲癩防法第三條第二項及第三項ノ規定ニ依ル一時救護中死亡シタル癲癩患者ニシテ引取者ナキモノノ死體及遺留物件ノ取扱ニ關シテハ行旅病人及行旅死亡人取扱法ノ規定ヲ準用ス但シ市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ニ於テ一時救護中死亡シタル場合ヲ除クノ外同法中市町村長ノ職務ハ當該行政官廳之ヲ行フ

療養所入所中死亡シタル癲癩患者ノ死體ハ之ヲ火葬スルコトヲ得

第八條ノ二 癲癩防法第二條ノ二ノ行政官廳ノ職權ハ内務大臣又ハ地方長官之ヲ行フ

本令ニ依リ市長ニ屬スル職務ハ東京市、京都市及大阪市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ補助執行セシムルコトヲ得

附 則

本令ハ和昭六年法律第五十八號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●癲癩患者療養所設置區域ニ關スル件

(明治四十年七月 內務省令第二十號)

改正 (明治四十三年三月 昭和二年十二月二十二日 內務省令 第一號 內務省令 第五十號)

道府縣ハ左ノ區域ニ依リ其ノ區域内ニ於ケル癲癩患者ヲ入ラシムル爲必要ナル療養所ヲ設置スヘシ

第一 區域

東京府 (伊豆七島小笠原) 神奈川縣 新潟縣 埼玉縣 群馬縣

千葉縣 茨城縣 栃木縣 愛知縣 靜岡縣 山梨縣 長野縣

第二 區域

北海道 宮城縣 岩手縣 青森縣 福島縣 山形縣 秋田縣

第三 區域

京都府 大阪府 兵庫縣 奈良縣 三重縣 岐阜縣 滋賀縣

福井縣 石川縣 富山縣 鳥取縣 和歌山縣

法 令

第四 區域

島根縣 岡山縣 廣島縣 山口縣 德島縣 香川縣 愛媛縣

高知縣

第五 區域

長崎縣 福岡縣 大分縣 佐賀縣 熊本縣 宮崎縣 鹿兒島縣 沖繩縣

附 則

本令ハ明治四十年法律第十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●療養所ヲ建設管理スヘキ地方長官ニ關スル件

(昭和三年七月二十日 內務省告示第七十五號)

明治四十年法律第十一號第四條ノ療養所ヲ建設管理スヘキ地方長官ハ第一區域ニ在リテハ東京府知事、第二區域ニ在リテハ青森縣知事、第三區域ニ在リテハ大阪府知事、第四區域ニ在リテハ香川縣知事、第五區域ニ在リテハ熊本縣下所在ノモノハ熊本縣知事、沖繩縣下所在ノモノハ沖繩縣知事トス

●海外諸港又ハ臺灣ヨリ來ル癲癩患者ノ取扱ニ關スル件

(明治四十年九月十四日 勅令 第二百九十四號)

海外諸港又ハ臺灣ヨリ來ル船舶ニ癲癩患者アル場合ニ於テ其ノ患者

外國人ナルトキハ地方長官ハ其ノ上陸ヲ禁止スヘシ但シ已ムコトヲ得サル理由アリト認ムルトキハ條件ヲ附シテ一時上陸ヲ許可スルコトヲ得

附 則  
本令ハ明治四十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●癩療養所職員制 (大正十年四月二十五日)

改正 (大正十年七月 同十二年一月 同十三年六月 同十五年三月 昭和二年九月 同四年五月 同十年三月二十六日)  
第三三九號 第一〇號 第一四三號 第四二二號 第二九四號 第一三九號 第三〇號

第一條 本令ニ於テ療養所ト稱スルハ明治四十年法律第十一號第四條第一項ノ規定ニ依リ設置スルモノヲ謂フ  
第二條 療養所ニ通シテ左ノ職員ヲ置ク

所長	一人	奏任官待遇
醫長	五人	奏任官待遇
醫員	十六人以内	奏任官待遇
調劑員	十二人以内	判任官待遇
看護婦長	十一人以内	判任官待遇
看護長	八人以内	判任官待遇

調劑手	專任	三人	判任
看護長	專任	三人	判任
看護婦長	專任	三人	判任

第三條 所長ハ醫官ヲ以テ之ニ充ツ、内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス  
第四條 醫官ハ上官ノ命ヲ受ケ癩患者ノ救護及療養ヲ掌ル  
第五條 事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル  
第六條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス  
第七條 調劑手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ調劑ニ従事ス  
第八條 看護長及看護婦長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ看護ニ従事ス  
第九條 國立癩療養所ノ名稱ハ内務大臣之ヲ定ム  
附 則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
(昭和六年三月三日)  
(内務省告示第二十九號)  
國立癩療養所ノ名稱ヲ左ノ通り定ム  
長 島 愛 生 園

●地方待遇職員令 (大正九年八月十一日)

改正 (大正九年八月 同十年十二月 同十年四月 第三三二號 第五七一號 第一五四號 同十年七月 同十年十一月 同十三年六月 第三四〇號 第四三六號 第一四九號)

法 令

主 事 專任 五人以内 奏任官待遇  
書 記 專任 二十二人以内 判任官待遇  
所長ハ醫長ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 所長ハ地方長官ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス  
醫長、醫員、調劑員及看護婦長又ハ看護長ハ上官ノ命ヲ承ケ療養所ニ關スル技術ニ従事ス  
主事及書記ハ上官ノ命ヲ承ケ療養所ニ關スル事務ニ従事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●國立癩療養所官制 (昭和二年十月十一日)

昭和三年 昭和六年二月二十三日 昭和八年 第二四一號 命令第一一號 第八九號 第二五〇號 第二五二號

第一條 國立癩療養所ハ内務大臣ノ管理ニ屬シ癩患者ノ救護及療養ニ關スルコトヲ掌ル  
第二條 國立癩療養所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長	一人	奏任
醫官	專任 一〇人	奏任
事務官	專任 一人	奏任
醫官補	專任 一人	奏任
書記	專任 八人	判任

同十年十二月 同十四年十二月 同十五年五月 第三九九號 第三二五號 第一三三號 昭和六年五月 第一一四號

第一條乃至第八條及第十條第十一條略  
第九條 待遇職員ノ俸給ハ別表ニ依ル但シ他ノ官職ニ在ルトキハ俸給ヲ給セス又ハ別表ニ掲グル最低金額ヨリ低キ俸給ヲ給スルコトヲ得  
第十二條 本令ハ左ニ掲グル職員ニシテ高等官又ハ判任官ノ待遇ヲ受ケルモノニ付之ヲ準用ス  
一 防疫職員官制ニ依ル職員  
二 稅關官制第二十六條ノ規定ニ依ル職員  
三 臨時海港檢疫所官制ニ依ル職員  
四 廳府縣衛生職員制ニ依ル職員  
五 癩療養所職員制ニ依ル職員  
六 家畜防疫職員制ニ依ル職員  
前項ノ規定ニ依ルノ外防疫醫檢疫醫臨時海港檢疫醫又ハ癩療養所ノ醫長若ハ醫員ハ醫師免許證ヲ有スル者ヨリ、癩療養所ノ調劑員ハ藥劑師免許狀ヲ有スル者ヨリ、檢疫獸醫又ハ防疫獸醫ハ獸醫免許狀ヲ有スル者ヨリ、廳府縣衛生技師又ハ衛生技師ハ其ノ職務ニ依リ各醫師免許證、藥劑師免許狀又ハ獸醫免許狀ヲ有スル者ヨリ、癩療養所ノ看護婦長又ハ看護長ハ看護婦免許狀又ハ看護人免許狀ヲ

有スル者ヨリ之ヲ任用ス  
(別表)

俸級	待遇別	奏任官待遇 職員年俸	判任官待遇 職員月俸
特別	俸	四、六五〇以下	一八〇以下
一級	俸	四、〇五〇	一四五
二級	俸	三、六六〇	一二五
三級	俸	三、四〇〇	一一〇
四級	俸	三、〇五〇	九五
五級	俸	二、七七〇	八五
六級	俸	二、四二〇	七五
七級	俸	二、一五〇	六五
八級	俸	一、八二〇	五五
九級	俸	一、六五〇	五〇
十級	俸	一、四七〇	四五
十一級	俸	一、三〇〇	四〇
十二級	俸	一、一三〇	

●癩豫防ニ關スル件 (明治四十二年二月二日)  
(内務省訓令第四十五號)

癩ハ古來本邦各地ニ蔓延シ久シク其ノ病性ヲ誤認セラレタルモ癩

- 二 患者ノ衣類寢具其ノ他日用品等ハ特ニ專用ノモノヲ備ヘ他ト混同セキル様注意スヘシ
- 三 患者ノ常用衣類敷布寢具等ハ時々消毒ヲ行ヒタル後洗濯スルコト
- 四 患者ノ居室ハ常ニ清潔ヲ保持スルコト
- 五 患者ノ居室ニハ消毒藥ヲ容レタル唾壺ヲ備フルコト
- 六 病室ニ汚染シタル繻帶手巾等ハ消毒ヲ行ヒ患者ノ紙屑襤褸類ハ燒却スルコト
- 七 患者ノ外出ハ可成避ケシメ止ムヲ得ス外出セントスルトキハ清潔ナル衣服ヲ著用シ又潰瘍アルモノハ其ノ繻帶ヲ更ムルコト
- 八 患者ハ可成他トノ交通ヲ避ケシメ又理髮店、公衆浴場、料理店、飲食店、劇場、寄席、乗合船車等公衆ノ出入スル場所ニ立入ラサルコト
- 九 患者ハ牛乳ノ搾取、飲食物、飲食物具(金屬、陶器類ヲ除ク)玩具ノ調製又ハ其ノ販賣其ノ他病室傳播ノ虞アル業ニ從事セサルコト
- 十 患者ノ住居シタル家屋ハ消毒ヲ行ヒタル後ニアラサレハ他ニ使用貸與又ハ授與セサルコト
- 十一 患者ノ使用シタル衣類、寢具、器具ハ勿論家人ノ常食衣類等病室ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル物件ハ消毒ヲ行ヒタル後

法 令

八

菌ノ發見ニ依リテ其ノ傳染性ナルコトヲ確定セラレタルモノニシテ主トシテ觸接ニ依リ又ハ患者ノ鼻汁唾液潰瘍部ノ濃汁等ニ汚染シタル物件ヲ介シテ病室ヲ他ニ傳播スルノ危險アルモノトス是ヲ以テ政府ハ明治四十年三月本病ノ豫防ニ關シ法律第十一號ヲ發布シ癩患者ニシテ療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキモノハ之ヲ府縣ノ療養所ニ隔離シ其ノ他ハ各自ニ於テ消毒其ノ他豫防方法ヲ行ハシメ以テ本病ノ蔓延ヲ防止シ漸次其ノ根絶ヲ圖ラントス然ルニ本病ハ從來非傳染病ト思惟シ來レルト其ノ經過緩慢ニシテ長年月ニ涉ルヲ以テ縱令外部ヨリ督勵ヲ嚴ニスト雖一般人民ヲシテ自衛ノ道ヲ講セシメ又患者並家人ヲシテ公德ヲ重ンセシムルニ非サレハ微ノ間ニ於テ病人ノ散漫ヲ來タシテ其ノ目的ヲ達センコト容易ナラス依テ一般人民ニ對シ常ニ本病ノ性質豫防ノ方法等ヲ訓諭シ之カ透導ヲ怠ラサルハ勿論現ニ患者アル家ニ對シテハ特ニ左記各號ノ事項ヲ指示シ學校、病院、製造所、旅店、船舶等ニ於テ患者ヲ發見シ若クハ患者ヲ入ラシムルトキ亦之ニ準シ相當處置セシムル等本病豫防ノ效果ヲ收ムルニ努ムヘシ

內務大臣法學博士 男爵 平 田 東 助

癩ニ關スル消毒其ノ他豫防方法

- 一 患者ノ居室ハ可成別ニ之ヲ定メ他ノ家人等ト雜居セサルコト
- ニアラサレハ他ニ使用、授與、移轉又ハ遺棄セサルコト
- 十二 患者ノ一時滯留シタル場合ニ於ケルモ其ノ占居シタル室並其ノ使用シタル衣類、寢具、器具等ニ對シテ亦前二號ヲ適用スルコト
- 十三 看護等ノ爲メ常ニ患者ニ接近シ又ハ病室汚染物件ヲ取扱フ者等ハ常ニ手指ノ消毒ニ注意シ又可成上被ヲ著用シ時々之ヲ消毒スルコト
- 十四 癩患者ノ死體ハ消毒ヲ行ヒタル後可成之ヲ火葬スルコト
- 十五 消毒方法ハ明治三十年內務省令第十三號ノ規定ニ準シ施行スルコト

●癩患者汽車輸送賃金ニ關スル件

(大正十年七月二十九日內務省衛生部第一〇一)  
(五號同省衛生局長ヨリ東京府知事ヘ通牒)

癩患者汽車輸送賃金ニ關シテハ從來後拂ノ取扱ヲ爲シ、有之候處今回鐵道省ニ於テ現拂ニ改正相成候爲之カ取扱上支障有之旨申出ノ向モ有之候處右ハ原則トシテ現拂ニ改メタルモ警察官署ニ於テ現金支出上差支アリ其旨當該驛長ヘ申出テタル時ハ驛長ヨリ所屬長ヘ經伺ノ上隨時後拂取扱ヲ爲シ得ル趣ニ付右ニ御了知相成度及通牒候也

九

癩病患者鐵道連絡船輸送ニ關スル件

(明治四十二年三月二十六日衛發第四十一號ノ内)

癩患者鐵道乗車ノ件ニ關シテハ糞ニ及通牒置候處尙又鐵道連絡船ニ於ケル取扱ニ就キ御問合ノ向有之鐵道院ヘ照會候處汽車輸送ノ場合ニハ別ニ乗用車輛ヲ連絡シ又ハ一室ヲ仕切ル等普通旅客ト隔離スルノ便アルモ汽船ニハ右ノ餘地無之ヲ以テ汽車同様ノ取扱ハ致難キモ事情ノ許ス場合ニ限り可成便宜ヲ謀ル様可取計旨回答有之候爲念此段及通報候也

第一區府縣立全生病院規程

(明治四十二年三月三十日)

改正 (明治四十二年九月 同四十二年十二月 訓令第二十九號 訓令第三十四號)
同四十三年三月 同四十三年八月 同四十三年九月 訓令第三十號 訓令第三十四號 訓令第三十號
同四十三年十月 同四十四年九月 大正四十四年十月 訓令第三十二號 訓令第三十一號 訓令第十號
昭和四年八月 昭和五年九月 訓令第二十號 訓令第十五號

第一條 本院ニ左ノ職員ヲ置ク
院長 一人
醫 長 一人
主 事 一人

醫 員 七 人
調 劑 員 三 人
看護婦長 一人
看護 長 一人
書 記 六 人
院長ハ醫長ヲ以テ之ニ充ツ

第二條 院長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ院務ヲ掌理シ部下ヲ監督ス主事ハ院長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌リ院長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス
醫員ハ院長ノ命ヲ承ケ醫務ニ従事ス
調劑員ハ院長ノ命ヲ承ケ調劑ニ従事ス
看護婦長及看護長ハ院長又ハ醫員ノ命ヲ承ケ看護ニ従事ス
書記ハ院長又ハ主事ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス
第三條 院長ハ左ノ事項ヲ專行ス
一 院務ニ關シ別段ノ規定アルモノノ外文書ノ往復ヲ爲スコト
二 職員ニ除服ヲ命シ又ハ請暇ヲ許否スルコト
三 機關手職員並備員ノ採用又ハ罷免ノコト
四 本院ニ對スル動産ノ寄附ニテ見積額五十圓未満ノモノノ受領及其ノ處分ヲ爲スコト
五 患者ノ入院限院及患者ヲ入ラシムヘキ療養所變更協議ニ關スルコト

六 患者ノ死體及遺留物件ノ取扱ニ關スルコト

七 院務ニ關シ出張ヲ爲シ又ハ職員若ハ雇員ニ出張ヲ命スルコト

但シ宿泊五日以上ニ涉ルモノハ知事ノ許可ヲ受クルヲ要ス

八 墓地並ニ火葬場管理ニ關スルコト

九 看護人養成ニ關スルコト但シ看護人養成規則ニ付テハ知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第四條 院長ハ職員ノ進退ニ關シ知事ニ具中スルコトヲ得

第五條 院長ハ處務細則其ノ他必要ナル規程ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 院長ハ變災又ハ異常事故アリタルトキハ知事ニ速ニ報告スヘシ

院長ハ患者逃走シタルトキハ患者送致府縣名、氏名、逃走年月日時、逃走ノ事由ヲ詳記シ速ニ知事ニ報告スヘシ患者歸院ノ場合亦同シ

第七條 院長ハ翌年度收支豫算材料ヲ調査シ毎年五月十五日限知事ニ差出スヘシ

第八條 院長ハ毎年度各科目毎ニ收支増減ノ理由ヲ詳記シタル決算書ヲ調製シ翌年度五月十五日限知事ニ差出スヘシ

第九條 本院執務時間ハ當廳ノ例ニ依ル但シ知事ノ認可ヲ得テ時限ヲ變更スルコトヲ得

第十條 本規程其ノ他特ニ命令ヲ以テ定メタルモノヲ除ク外當廳ノ例規ヲ準用ス
第十一條 本規程ハ明治四十二年四月一日ヨリ施行ス

第一區府縣立全生病院雇員退職給與金支給規則

(大正十四年九月二十九日)

改正 (昭和四年八月二十二日)

(東京府訓令第二十三號)

第一條 在職一年以上ノ雇員又ハ在職五年以上ノ備員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ退職給與金ヲ支給ス但シ犯罪又ハ職務上ノ失態ニ依リ職ヲ免セラレタル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

一 傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘス退職シタルトキ
二 廢院廢職又ハ事務ノ都合ニ依リ退職ヲ命セラレタルトキ
第二條 本則ニ於テ雇員トハ機關手、工手、雇員、看護人及調劑助手ヲ、備員トハ給仕、小使、炊夫、火夫、洗濯人及裁縫人ヲ云フ

第三條 在職年ノ計算ハ就職ノ月ヨリ起算シ退職ノ月ヲ以テ終ル雇員、備員相互轉職シタルトキハ前後ノ月數ヲ通算ス但シ備員ヨリ雇員ニ轉シタル場合ニ於テ雇員在職一年未滿ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職月ノ計算ハ備員ノ二月ヲ以テ雇員ノ月ト看做ス但シ在職十年以上ノ備員ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四條 看護人ニシテ直接看護ヲ命セラレ引續キ一年以上病室ニ勤務シタルトキハ一月ニ付半月ヲ加算ス但シ引續キ三十日以上病室ニ勤務セサルトキハ全ク勤務セサル月ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第五條 退職給與金ハ雇員又ハ在職十年以上ノ備員ニ在リテハ退職當時ノ月俸額又ハ日給三十日分ニ在職年ヲ乘シタル金額、在職十年未滿ノ備員ニ在リテハ日給十五日分ニ相當スル金額ニ在職年ヲ乘シタル金額トス但シ圓位未滿ハ圓位ニ滿タシム

第六條 公務ニ由リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘス退職シタル場合ハ前條ニ依リ算出シタル金額ノ二分ノ一以內ヲ増額ス但シ第四條ニ依リ加算セラレタルモノニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第七條 雇員死亡シタルトキハ退職給與金ニ相當スル金額ヲ其ノ遺族ニ支給ス

備員ニシテ公務ニ由リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ死亡シタルトキハ在職五年ニ滿タサル場合ト雖モ第五條後段ニ依リ算出シタル金額ヲ其ノ遺族ニ支給ス

遺族並ニ其ノ順位ハ恩給法所定ノ例ニ依ル

附 則

本令施行ニ際シ現ニ其ノ職ニ在ル者又ハ雇員ヨリ職員ニ轉職シ現ニ其ノ職ニ在ル者ニ對シテハ各其ノ就職シタル月ヨリ起算シ本令ニ依リ之ヲ支給ス

第四條ノ規定ハ大正十二年十月一日以降ノ事實ニ之ヲ適用ス

大正四年八月東京府訓令第八號第一區府縣立全生病院職員退職給與金支給規則ハ之ヲ廢止ス

●第一區府縣立全生病院看護人

看護婦講習所規則

第一條 本院看護人看護婦ノ講習ハ一般患者ノ看護法ヲ教授シ併セテ慈愛ノ精神ニ基キ品性ノ向上ニ努ム

第二條 生徒ハ本院看護人看護婦見習及雜役婦ヨリ院長之ヲ選考シテ入學セシム

第三條 生徒入學資格ハ高等小學校卒業者若クハ之ト同等以上ノ學力アル者ヨリ選抜ス

第四條 本所講習生徒ノ定員ハ二十名以內トス

第五條 修業年限ハ二ケ年トシ各學年ハ四月ニ始マリ翌年三月ニ終ル第一學年及第二學年ノ前半期ハ學說ヲ授ケ第二學年後半期ハ專ラ實地ヲ習熟セシム

第六條 學科ノ教授時數ハ一週二十二時間トシ時間割及各課擔任講師ハ別紙添付ノ通り

第七條 試驗ハ學說及實地ノ二トシ第二學年ノ終リニ行フ採點法ハ一科目十點ヲ滿點トシ毎科五點以上平均點六點以上ヲ得タルモノヲ及第トス

第八條 講習生病氣其ノ他ノ事故ニヨリ授業日數中缺席三分ノ一以上ニ及ブモノハ卒業セシメス

第九條 講習生ニシテ成績不良ニシテ卒業ノ見込ナキ者又ハ生徒タル體面ヲ汚ス行爲アル者ハ卒業セシメス

第十條 講習卒業者ニハ左記様式ニ依リ卒業證書ヲ授與ス

卒業證書	氏名
族籍	生年月日
本院所定ノ看護學講習課程ヲ修了セシコトヲ證ス	年 月 日
院 長 名	
第 號	

第十一條 講習料ハ徵收セサルモノトス

第十二條 本講習所ノ講師ハ本院職員、調劑員其ノ他ノ職員之ニ當ル

第十三條 學科目ヲ左ノ通り定ム

- 一 修 身
- 二 國 語
- 三 食餌法及營養學
- 四 解剖學及生理學
- 五 一般看護法及主要ナル各科疾患看護法
- 六 衛 生 學
- 七 傳染病學、細菌學、寄生蟲病學
- 八 消毒 方法
- 九 繻 帶 學
- 一〇 醫療機械學
- 一一 救急處置法
- 一二 一般治療介補及外科の介補
- 一三 藥物學大意及調劑法
- 一四 英 語

各學科教授時間割及各學科擔任講師

第一學年教授時間割		第二學年教授時間割	
曜時	月	曜時	月
午前八時……十時	解剖學 生理學 傳染病學 細菌學 寄生蟲學	午前八時……十時	食飼法及營養學 傳染病學 各科主要疾患看護法 藥物學大意及調劑學 救急處置法
午後一時……三時	修身 國語 衛生學 消毒方法 醫療機械學 繙帶學	午後一時……三時	修身 國語 衛生學 外科的介補 一般治療介補 繙帶學
	救急處置法		國語 英語

昭和十年八月二十七日印刷

昭和十年八月三十日發行

(非賣品)

東京府北多摩郡東村山村南秋津一六五五番地

發行者 第一區府縣立全生病院

電話所澤一四二番

東京市京橋區西八丁堀三ノ二二

印刷者 高島幸三郎

東京市京橋區西八丁堀三ノ二二

印刷所 高島印刷所

電話京橋二七二三番



寄贈

1630



4905

終

